

3 R 活動先進事例集 2012

～平成24年度循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰受賞者の取り組み～

平成25年3月

環境省

3 R活動推進フォーラム

はじめに

「循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰」は、平成18 年度に環境省によって設けられ、廃棄物の発生抑制（リデュース）、再利用（リユース）、再生利用（リサイクル）の3R（スリー・アール）の適切な推進に顕著な功績があった個人、団体、企業を表彰し、その功績をたたえて、循環型社会の形成の促進に資することを目的としています。

この3R 先進事例集は、平成24 年度「循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰」を受けられた企業20社、団体10団体および個人4名の先進的活動の概要を事例集として取りまとめたものです。

本事例集が、3R 推進に取り組む全国の企業、NGO 等団体・市民、自治体等行政の関係者の皆様の今後のご活動のご参考となれば幸いです。

平成25年3月

環境省

3R 活動推進フォーラム

平成24年度循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰受賞者

3R活動優良企業

部門	都道府県	氏名等	功績内容	ページ
企業	北海道	株式会社常呂町産業振興公社	昭和54年からホタテの貝殻を漁協から購入し、土壌改良材に加工処理し、農協を通じて組合員に販売し、地域における資源循環システムを形成している。	4
企業	北海道	農事組合法人細澤牧場と株式会社アレフ	食品加工工場から排出された生ごみと牛糞からバイオガスを発生させ、輸送用ボンベに圧縮充填し、そのガスを(株)アレフの食品加工工場のボイラーの熱源として利用し、リサイクルループを形成している。	6
企業	北海道	株式会社山内組	建設現場から発生するコンクリート、アスファルト、木くずなど、廃棄物の90%以上を再資源化している。	8
企業	岩手県	株式会社環境保全サービス	独自の技術・装置を開発し、再利用が困難な廃ガラスの循環利用の拡大に貢献するとともに、普及に尽力している。	10
企業	岩手県	新日本製鐵株式会社 棒線事業部 金石製鉄所	間伐促進による森林資源の再生のため、林地残材などの廃棄物をバイオマス石炭混焼発電で利用することにより、有価物として利用されるシステムを構築している。	12
企業	岩手県	塩野義製薬株式会社金ヶ崎工場	事業活動における温室効果ガス排出量や廃棄物発生量の目標を設定して全社的に取組み、11年間にわたり廃棄物の再資源化率90%を維持している。	14
企業	岩手県	盛岡セイコー工業株式会社	「廃棄物削減」という環境方針のもと、時計生産における不良品の発生率の抑制、製造工程で用いる運送用トレーの再使用、形成部品の外枠等の再利用を進め、廃棄物の最終処分量ゼロを達成している。	16
企業	栃木県	株式会社小松製作所小山工場	2000年11月より11年間継続して産業廃棄物のゼロエミッション活動を維持継続するとともに、社員の全員参加による徹底的な分別活動を実施している。	17
企業	東京都	サントリーホールディングス株式会社と協栄産業株式会社	日本初のメカニカルリサイクルによる再生PET樹脂100%の飲料用PETボトルを導入するとともに、最薄ラベルの取組みによる資源有効活用を実施している。	19
企業	東京都	株式会社アルフォ(城南島飼料化センター)	年間3万トンの生ごみと動植物性残さを、廃食油を熱媒として用いる製造方法により、配合飼料の原料を製造し、脱焼却によるCO2排出量の削減と資源循環を進めている。	21
企業	東京都	株式会社熊谷組	全作業所においてゼロエミッションを目指し、作業所ごとに計画書や報告書を作成し、良い取組みは全社的に水平展開するとともに、社内表彰制度を設けるなどして推進している。	23
企業	東京都	東京ボードグループ「東京ボード工業株式会社」	廃木材をパーティクルボードの原料として再生利用することにより、建設現場や各工場での木材ゼロエミッションを達成している。	25
企業	新潟県	株式会社日本アクシーズ	昭和40年の創業以来、一般廃棄物や産業廃棄物の収集運搬、リサイクル等の中間処理・資源再生事業を展開し、廃棄物の適正処理及び減量化の推進、再生資源の有効利用を進めている。	27
企業	福井県	株式会社ガイアートT・K 福井合材工場	道路舗装材(アスファルト合材)の製造過程において発生する廃棄油や排気熱の再利用など天然資源の消費抑制に努めるとともに、工場から排出される一般廃棄物の減量にも取り組んでいる。	29
企業	長野県	株式会社みすず工業	事業所から排出される廃酸、廃アルカリ・汚泥等を無害化・減量化を進め、廃液から資源回収を進めるリーダー企業として事業展開をしている。	31
企業	長野県	直富商事株式会社	昭和50年の会社設立以来、「全ての廃棄物を再資源化」をモットーに、産業廃棄物収集運搬業・処分業及び金属スクラップ・廃OA機器類・廃プラスチック類・廃食用油等のリサイクル事業を推進している。	33
企業	岐阜県	松岡コンクリート工業株式会社	溶融スラグ・鉄鋼スラグを用い、一部を砂と置換してコンクリートの二次製品を製造・販売するとともに、CO2削減・遮熱塗料によるヒートアイランド対策を進めている。	36
企業	静岡県	NECアクセステクニカ株式会社	工場排出廃棄物の削減及び製品回収リサイクルシステムを実現するとともに、掛川市と協働で、同社を会場に親子環境学習会や環境学習の指導者養成の学習会を実施している。	38
企業	愛知県	株式会社ダイセキ	全国規模での資源循環を推進し、リサイクル製品受入企業との製品規格の共同開発を行うとともに、排出事業者への使用薬品変更や分別管理依頼等を積極的に行い、排出事業者、リサイクル製品受入事業者3者がメリットを受ける仕組みをつくっている。	40
企業	兵庫県	森永乳業株式会社 神戸工場	コーヒーかすはボイラー燃料として、液体残渣、排水汚泥はメタン発酵させてメタンガスとして取り出し、熱利用を進めるなどにより、廃棄物の発生量を大幅に削減している。	42

3R 活動推進功労団体・3R 活動推進功労個人

部門	都道府県	氏名等	功績内容	ページ
団体	北海道	クルクル 循環ネットワーク旭川	紙パックの回収運動をきっかけに行政、市民を巻き込んだ廃棄物減量化運動に発展、また、学校や福祉施設などでのリサイクルに関する実践講座を行い資源有効活用の普及啓発活動も進めている。	46
団体	北海道	旭川消費者協会	昭和47年から始めた過剰包装削減の運動は、平成15年には旭川スーパーマーケット協会や市の協力のもと、全市内の運動として展開するようになりました。その他、リユース講座や出前講座、消費者セミナーなども実施している。	48
団体	山形県	ごみ減量・もったいないねッ 山形	「もったいない」を合い言葉に、市民・事業者・行政の3者により運動を進め、市内スーパーでの「レジ袋の無料配布の一斉中止」の中心的な役割を担うなどし、県内外に大きな影響を与えた。	50
団体	栃木県	大平町ごみを考える会	約10年にわたり「マイバックの持参」運動を展開し、市内の多くの小売店を巻き込んで、定期的な「マイバック持参デー」を展開するとともに、公民館などでの出前講座で3Rの普及啓発活動も行っている。	52
団体	埼玉県	JB環境ネットワーク会	大手飲料事業者18社が連携して設立し、飲料空容器の資源循環の実施をするとともに、工場見学や環境出前講座、作文コンクールやシンポジウムを開催し環境教育の普及活動も進めている。	54
団体	富山県	射水市立中太閤山小学校	34年間、アルミ缶などの資源集団回収を進めるとともに、地域住民と一緒に清掃美化活動を行うなど、家庭や地域社会と連携した活動を継続的にしている。	56
団体	石川県	特定非営利活動法人いきいき	古着、古着物を回収し、「裂き織り」製品を作成販売するとともに、小中学校や町内店舗に回収ボックス設置して牛乳パックの回収を行っている。	58
団体	鳥取県	社会福祉法人遊歩 ユウホ フレモコウ 吾亦紅	地域から牛乳パックや廃食用油を集め、バイオディーゼル燃料やハガキ等を製造、老人福祉施設での紙すき教室も開催している。	60
団体	鳥取県	伯耆町立岸本小学校	給食センターと連携し食品残さを堆肥利用。また牛乳パックからハガキを製作するなど環境学習についての取組も実施している。	62
団体	岡山県	特定非営利活動法人 エコ ネットワーク津山	ごみの減量化と再利用を目的として設置されている施設運営や環境イベントを通じて、ごみの減量化やリユース、リサイクルの必要性等を広く市民に積極的に啓発している。	64
個人	群馬県	茂木徹夫	群馬県再生資源事業協同組合連合会役員として、資源の再利用・再生利用に努め、業界発展に尽力すると共に循環型社会形成に貢献してきた。	68
個人	静岡県	河合 優	平成元年から三島市環境美化推進委員としてごみの分別指導や集積所の環境美化管理を率先して行うとともに、平成8年からは環境美化推進員会理事として他の環境美化推進委員の指導も積極的に実施している。	70
個人	福岡県	吉住 裕昭	筑後市環境衛生協議会の会員として地域での分別収集指導、ごみ減量化、不法投棄防止活動、環境美化活動を実施し、平成11年度からは環境衛生協議会会長として団体の先頭に立って尽力している。	71
個人	福岡県	川添 克子	長年にわたり(公社)福岡県産業廃棄物協会役員として、会員の資質向上、業界内外の啓発活動等を実施し、3R活動の推進に貢献している。	73

参考資料	76
資料1 循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰実施要領(抄)	78
資料2 平成19～23年度循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰者功績一覧	84

3R活動先進事例集

3R活動推進功勞企業

株式会社 常呂町産業振興公社

代表者：代表取締役 小野寺 俊幸

設立：昭和 54 年 12 月 11 日

活動概要

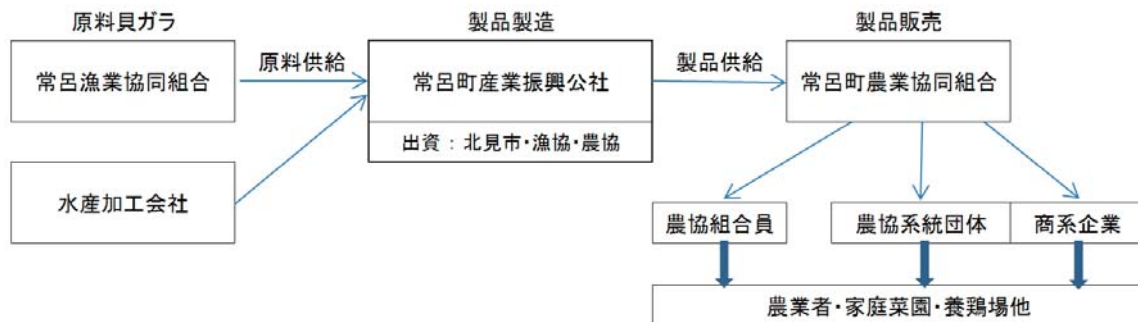
I 概要

常呂漁業の基幹品目であるホタテ貝は、外海放流事業が軌道に乗り、全国でも有数な大産地として育ち、安定した水揚げを確保されています。しかしながら一方では、ホタテ貝の加工場からは、残さ物として貝殻が大量に排出されます。

当公社工場では、町内で排出されたホタテ貝殻を一元化し、貝殻の粉末処理加工を行ない畑に有効な土壌改良材として、町内農家へ安価で提供するほか、近隣農家や家庭菜園用にも広く供給しています。

また、このほか、鶏の飼料、土地改良資材（暗渠排水疎水材）などにも利用され、町内から排出されるホタテ貝殻の完全処理を図っています。

□ 概要フロー



II. 設立経緯

常呂町(現北見市)は、農業と漁業の2大産業の町として発展してきました。

常呂漁業協同組合は、昭和40年代後半から、ホタテ貝の漁獲量の拡大と安定を図るため「採る漁業から育てる漁業」へと転換を目指し、外海(オホーツク海)放流事業を開始いたしました。

昭和50年度代に入りこの成果が表れ漁獲量は急増した反面、各加工場からは、大量の貝殻が排出され産業廃棄物として環境問題にも発展し、貝殻の処理が緊急の課題となっていました。

このため、ホタテ貝殻の活用について検討した結果、含有している主成分であるカルシウムが畑の土壌改良材として有効であると確認されたことから、町内農業者に対して安価で供給し、ホタテ貝殻を処理する目的で工場が設立されました。

III. 事業効果

□ 漁業者 加工場から排出される貝殻が産業廃棄物となればその処理に多大な処理経費がかかるが、肥料等に加工処理を行なうことにより、産業廃棄物となる心配がなく、安定した水揚げが行なうことが可能となりました。

□ 農業者 通常、土壌改良材として使用する炭酸カルシウム（炭カル）に比べ貝殻粉末の土壌改良材は、地元農業者中心に約2割程度低価格で供給しています。また、貝殻粉末は、石灰の他にマンガンなど微量元素も含まれており、良質な土壌改良材として有効利用されています。

IV. 事業実績

単位 : t

年 度	S54～H18	H19	H20	H21	H22	H23	実績総数量
貝殻処理量	165,601	6,538	5,659	5,355	4,987	5,323	193,463
製品販売量	163,712	6,501	5,396	5,380	5,118	5,408	191,515

V. 活動状況

工場全景



ホタテ貝ガラ原料堆積所



原料受入ホッパー及び供給コンベアー



製品はい積みロボット



製品保管倉庫



製品散布



所在地 〒093-0215 北海道北見市常呂町字岐阜 1 4 - 7

連絡先 TEL : 0152-45-3308

e-mail : kousya-hiraike@bz03.plala.or.jp

U R L

農事組合法人細澤牧場、株式会社アレフ

畜産農家と食品工場のコラボレーション「牛ふん尿と生ごみの精製バイオガス化によるリサイクルループ」

代表者：細澤牧場 代表理事 細澤 伸一、(株)アレフ 代表取締役社長 庄司 大

事業着手：平成 19 年 6 月

活動概要

① 事業の概要

農事組合法人 細澤牧場（千歳市）は、フリーストール牛舎から排出される牛ふん尿のエネルギー化を行うために平成 18 年 7 月にバイオガスプラントを導入しました。更に、翌年の平成 19 年に恵庭市に開業した(株)アレフ北海道工場から排出される生ごみの受け入れを開始しました。受け入れ開始と同時に、バイオガス精製装置を導入し、メタン濃度を 60%から約 90%まで精製した後に輸送用ボンベに圧縮充填を行い、同工場の蒸気製造を目的とする天然ガスボイラーの燃料として利用しています。畜産農家と食品工場において、牛ふん尿と生ごみのエネルギー化によるリサイクルループを実現した国内でも例の少ない先進的な取り組みです。

② 導入の経緯

細澤牧場は、フリーストール牛舎で約 250 頭の成牛を肥育しています。排出される排泄物（ふん尿）は日量で約 18 トンになり、全量を堆肥化し、販売と自家消費に供していました。しかし、堆肥化の過程で投入する水分調整材のコスト負担及び、堆肥の需給不均衡による販路確保の困難性が未解決の課題としてありました。そこで、代替案の検討をした結果、平成 18 年 7 月にバイオガスプラントを導入しました。導入の意図は「エネルギー化」と「肥料化（液肥）」によるリサイクル利用。発生するバイオガス（メタン濃度約 60%）はバイオガス専用ボイラーの燃料として同プラントの加温に利用していましたが、利用可能な余剰ガスが発生していました。何とかこの余剰ガスを更に有効に利用できないかを検討していました。株式会社 アレフ「北海道工場」は、恵庭市内に平成 19 年 2 月に竣工した食品加工工場です。同工場は、同社が展開する「びっくりドンキー」道内店舗で使用する食材の一次加工を担います。建設計画にあたり、「地域と連携した環境負荷低減工場」の実現が大きなテーマでした。従来、同社では生ごみの堆肥化リサイクルを進めていましたが、同工場においては化石燃料からの脱却を目的に生ごみのエネルギー化を検討していました。自らバイオガスプラントを所有するには、生ごみ量が少ないためガス発生量が少ない、建設コストがかさむなどの課題があり、近隣でバイオガスプラントを所有する事業者との連携を模索していました。そこで、平成 19 年度に 5 社共同による「バイオガスプラントからのバイオガス回収及び運搬供給事業」に細澤牧場とアレフ北海道工場が協力し、平成 19 年 6 月から生ごみのバイオガス化を開始しました。同工場から排出される生ごみを受け入れ、牛ふん尿と一緒にバイオガスプラントで発酵させ、精製したバイオガスを同工場で利用するリサイクルループを形成したのです。

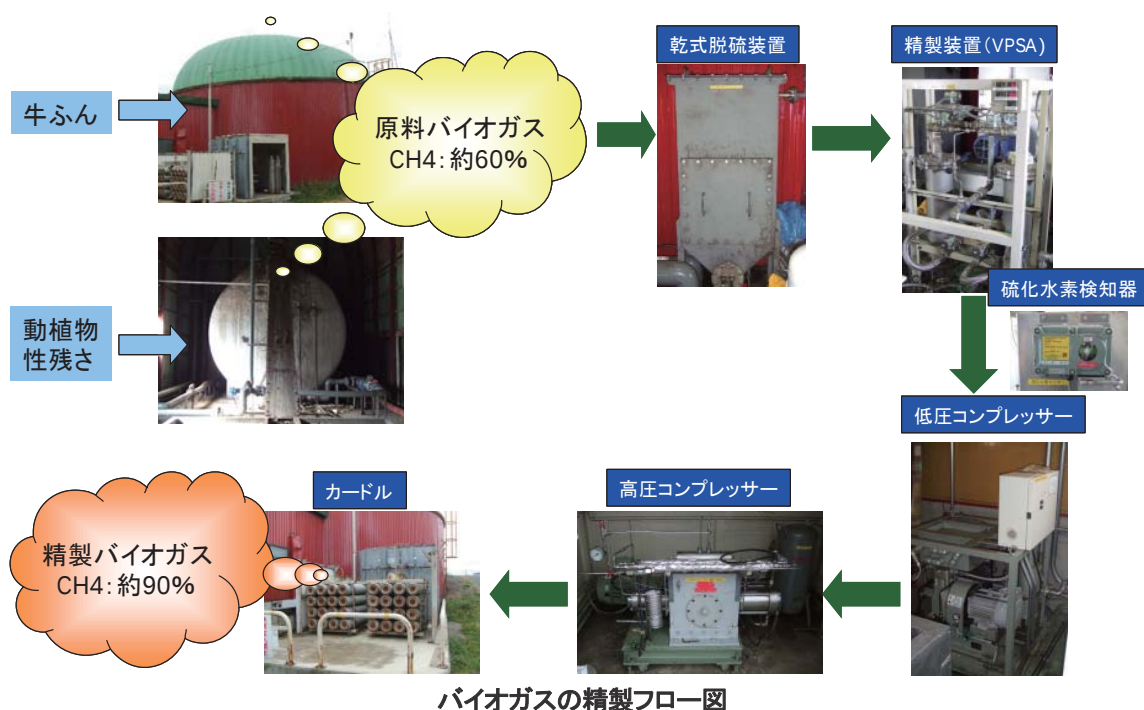
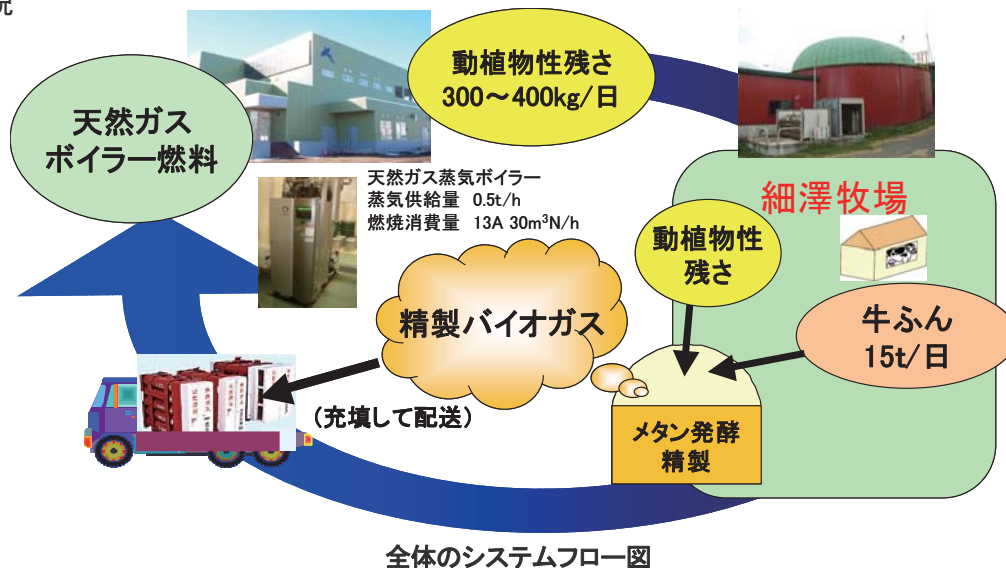
③ 事業による効果

メタン濃度を 60%から 90%まで精製したバイオガスを、最大 15MPa の高圧コンプレッサーにより専用ボンベに充填を行っています。1 日最大 99 m³の精製バイオガスを製造し、3 日に 1 度アレフ北海道工場に運搬し、食品加工工場で使用する蒸気ボイラーの化石燃料代替エネルギーとして使用しています。精製バイオガス使用量とこれによる二酸化炭素削減効果は年々増加し、平成 23 年度は 14,660 m³(▲40t-CO₂)、5 年目の本年度は 20,000 m³ (▲54t-CO₂) を目指して稼働しています。酪農家側は生ごみの廃棄物処理費とバイオガス販売の二つの収入源を得る、食品工場側は再生可能エネルギーの利用により環境負荷低減に貢献できる、というお互いのメリットを創出した新たなビジネスモデルが生まれました。

④ 今後の展望

この小規模分散型のシステムは、「広く薄く」賦存するバイオマス資源の活用にあてはまるため、今後将来的には畜産系バイオマスだけでなく、食品系バイオマスや下水汚泥等地域に分散するバイオマス資源の有効利用が期待される将来性の高い事業モデルです。取組開始から5年を経過した今でも全国から多数の視察が訪れています。今後も、海外からの輸入燃料に依存しない、北海道に合った地産地消型エネルギー利用システムの構築のための普及啓発に寄与していきたいと考えます。

活動状況



所在地 細澤牧場 〒066-0008 北海道千歳市根志越 2497 番地 1

株式会社アレフ北海道工場 〒061-1433 北海道恵庭市北柏木町 3 丁目 160-1

連絡先 TEL: 細澤牧場 0123-23-6463、(株)アレフ環境事業部 0123-39-5800

U R L <http://www.aleph-inc.co.jp/>

代表者：代表取締役 山内 信男

設立：昭和 36 年 4 月

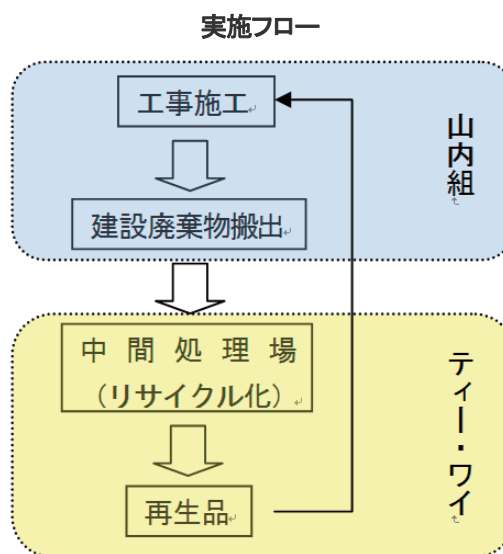
活動概要

建設現場から発生する産業廃棄物の再資源化

1 事業の概要 ～知恵とやる気で有効資源～

平成 8 年にグループ会社、㈱ティー・ワイを設立。工事現場から発生する産業廃棄物を再生化し、販売する事業を始めました。全産業廃棄物の約 20% を占める建設廃棄物ではありますが、当社では循環型社会の形成を推進するため、埋立て処分に依存しない環境リサイクル事業をすすめています。この取組みについては、自社だけの建設廃棄物だけではなく、処理場の近隣で施工している他社の建設廃棄物についても受入れを実施しています。コンクリート及びアスファルト廃材は、再生骨材としてリサイクル化し、再度建設資材として利用されています。伐木・枝類などの木くずについてもチップとして建設資材に再利用され、また、パークとして牛舎の敷藁などにも利用されています。

当社所有のクラッシャ（コンクリート・アスファルト用の破碎機）、タブグラインダー（木くず用の破碎機）等は、全て自走式となっており、建設廃棄物の発生現場で使用する事ができ、発生現場から処理場までの運搬費を低減させることが可能です。最近の建設工事では、木くずなどの現場発生廃棄物を現場再利用するという設計が増えており、さまざまな工事現場で使用されています。



クラッシャによる破碎状況



2 設立に至る経緯

～「機動力」と北海道の将来を見据えて～

㈱山内組は、主に土木工事請負業を営んでおり、砂利プラントも所有しています。また、建設機械・ダンプトラックを所有し、労務についても直営で施工しており、「機動力」が当社の特長であり強みかなとも考えております。

環境問題と大きな関わりをもつ建設業は、騒音・振動などに関わらず地球環境問題についても大きな影響を与えてしまう産業です。しかしながら人が生活するため、生きるための環境を整備することが建設業の役割であり、3月11日に発生した東日本大震災においても多くの分野で建設業が活躍しているのは事実であります。㈱山内組は、建設会社として北海道の豊かな自然・豊かな環境を将来に引き継ぐため㈱ティー・ワイを設立し、環境リサイクル事業を始めました。

3 発生・排出抑制の取組内容 ～不純物除去からスタート～

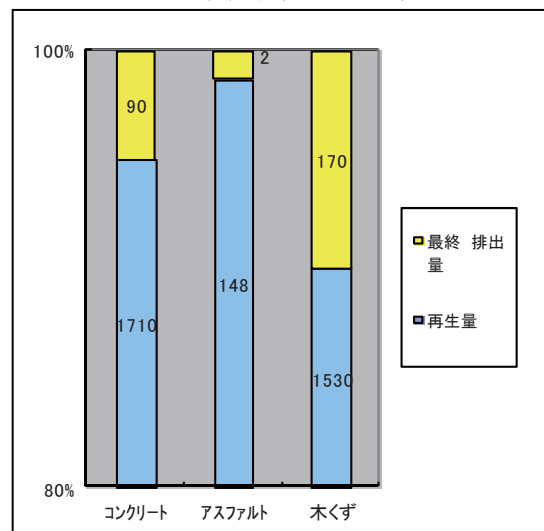
㈱ティー・ワイでは、建設廃棄物搬入後の工程を次のようにしリサイクル化を実現しています。最初に建設廃棄物に混入している不純物を除去します。除去方法として、鉄筋類は磁石、その他不純物については手作業で行います。その後、製品の規格に応じ破碎を行い、製品試験を実施し再生品として販売します。

4 事業による効果や実績 ～90%以上の達成率～

㈱ティー・ワイの設立前は、現場で発生した建設廃棄物を他社に搬出し、埋め立て処分されていましたが、設立後は㈱ティー・ワイに搬出し、その90%以上がリサイクルされています。

平成21年度につきましては、㈱山内組排出量、コンクリート1800t・アスファルト150t・木くず1700tであり、㈱ティー・ワイの再生率は、コンクリート95%・アスファルト99%・木くず90%となっているので、㈱山内組排出分の再生出荷量は、再生骨材（コンクリート）1710t・再生骨材（アスファルト）148t・ウッドチップ1530tとなります。この結果から㈱山内組の年間建設廃棄物排出量は、コンクリート90t・アスファルト2t・木くず170tまで抑制することができました。

平成21年度実績表(山内組排出分)



5 今後の展望 ～更なる飛躍～

㈱山内組では、低騒音で二酸化炭素排出量を削減するハイブリッドバックホウを導入し、環境に配慮した工事の施工に取り組めます。

㈱ティー・ワイでは、今まで培ってきた経験と技術を更に進歩させ、リサイクル達成率を限りなく100%にするよう努力するとともに、社員全員が環境問題を真剣にとらえ、目的意識を持って行動します。

所在地 〒089-1521 北海道河西郡更別村字更別南2線94番地

連絡先 TEL : (0155)52-2311 FAX : (0155)52-2315

URL 山内組 <http://www.kk-yamauchigumi.co.jp> T・Y <http://www.kk-ty.co.jp>

代表者：代表取締役 狩野 公俊

設立：昭和54年12月11日

活動概要

平成2年3月に岩手県の大槌町から町で処分に困っている廃ガラスびんのリサイクルについて相談があり、町の廃棄物担当の職員と検討し土木等の資材として利用するためには鋭利な角があっては利用出来ないことが判明したので平成2年4月から角の無いガラス砂を破碎加工するための装置の開発に取り組んだ。

試行錯誤の結果平成7年2月に破碎機などの装置をシステム化した試作機が完成し、1年間試験破碎を繰り返し確証を得て、平成8年4月に事業展開するための大型機を当社の工場に設置し、平成9年4月の容器リサイクル法施行に伴い事業化に取り組んだ。

機器装置開発（平成2年～平成7年）

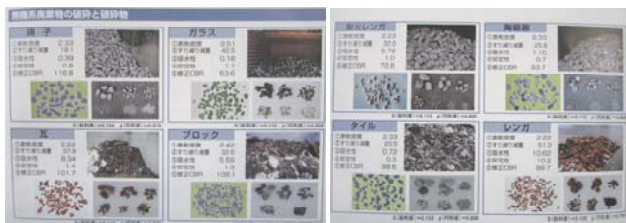


開発した装置名は

乾式ガラスリサイクル破碎装置

破碎は瞬間的（数秒）で破碎でき、破碎物は鋭利な角がない安全な粒子に破碎加工される

この装置はガラス、陶磁器、瓦、磚子、タイル等の、無機系廃棄物はガラス同様に破碎加工できるものです。



ガラス破碎物の形状と粒子



粒度 0~1,2/1,2~2,5/2,5~5,0
5,0~13,0mm

装置の販売と組合の設立（平成7年～現在）

平成7年装置の完成と同時に特許申請し日本を始め、現在まで韓国、台湾、オーストラリア、カナダ、アメリカ、ヨーロッパ14ヶ国の20ヶ国から取得。併せて国内へ装置販売の営業展開し、現在まで16府県へ24基販売する。

平成12年4月装置導入事業者の有志で経済産業省認可の廃ガラスリサイクル事業協同組合を設立して、原材料の受入から製品の販売、工事施工までの一貫した取り組みを展開し、順調に事業活動を展開中です。

製品の利用実績（平成7年～現在）

廃ガラス製品を使用した工事施工実績は景観舗装は全国で数千カ所、アスファルト舗装では北海道を中心に数百万㎡、コンクリート製品ではインタロッキング、平板製品等で数百カ所、埋め戻し材は10万トンの実績ができました。

製品の用途と施工例(平成9年～現在)

ガラスリサイクル製品を使用した国の工事例

国道のアスファルト工事

国道48号線(骨材)



埋戻し(地盤安定材)

茨城県 高速道取付工事(地盤安定材)



コンクリート製品

岩手県釜石市 港湾工事(根固ブロック骨材)

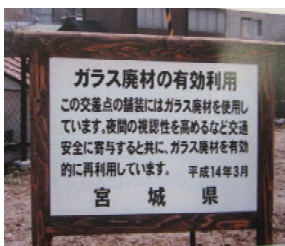


ガラスリサイクル製品を使用した県・市町村の工事例

アスファルト工事(宮城県栗原市)



啓蒙看板



コンクリート製品工事(岩手県大船渡市)



ガラスリサイクル製品を使用した民間事業所・個人家庭利用例

景観舗装 民間事業所



個人家庭での利用 インテリア



所在地 〒023-0001 岩手県奥州市水沢区卸町4-7

連絡先 TEL : 0197-25-7522 FAX : 0197-25-6229 e-mail : kan@po.sphere.ne.jp

URL <http://www.khs.ne.jp>

代表者：所長 安藤 豊

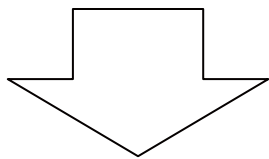
設立：平成 22（2010）年 10 月

活動概要

森林資源の再生、産業振興、雇用創出、低炭素社会の形成に向けて、間伐促進による林地残材などの廃棄物をバイオマス石炭混焼発電で利用することにより、有価物として利用されるシステムを構築した。

(1) 釜石市「緑のシステム創造事業」

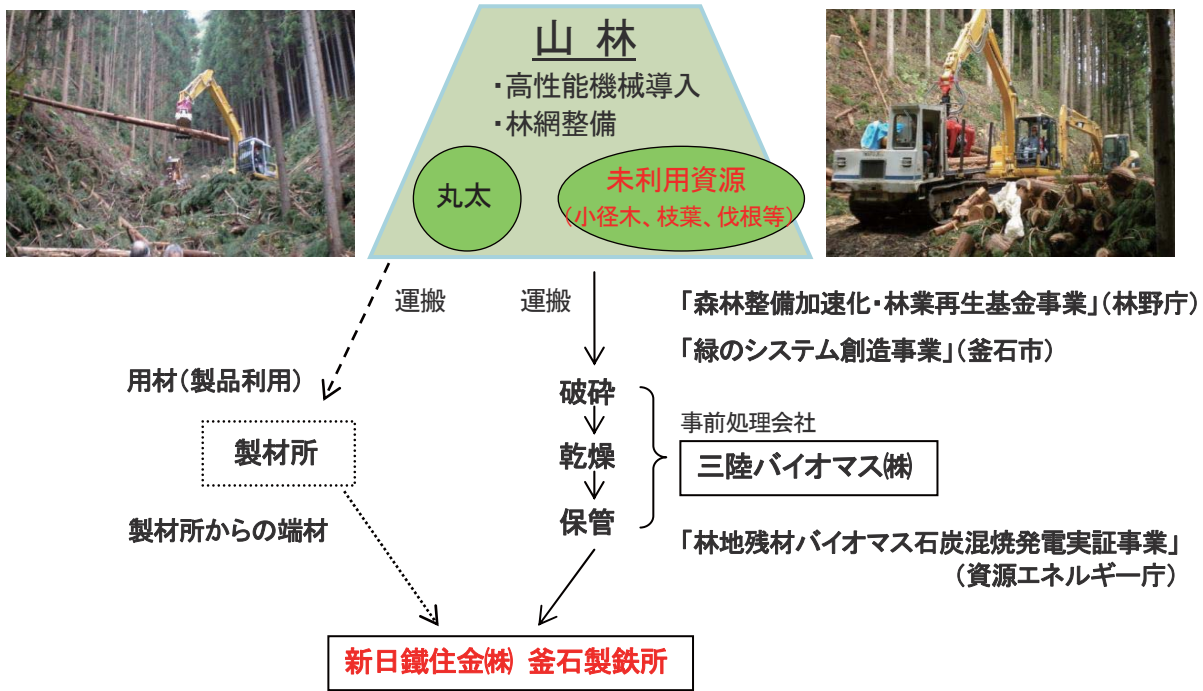
本活動実施に当たっては、林業・工（製造）業・行政が連携した取り組みが必要となることから、平成 21 年に「木質バイオマス高度利用研究会（※）」を立ち上げ、釜石市「緑のシステム創造事業」とした。



(※)メンバー：

[岩手県、釜石市、釜石地方森林組合、新日鐵住金]

- ・ 従来、林内放置していた未利用資源（木質バイオマス） → 収集・活用可能に

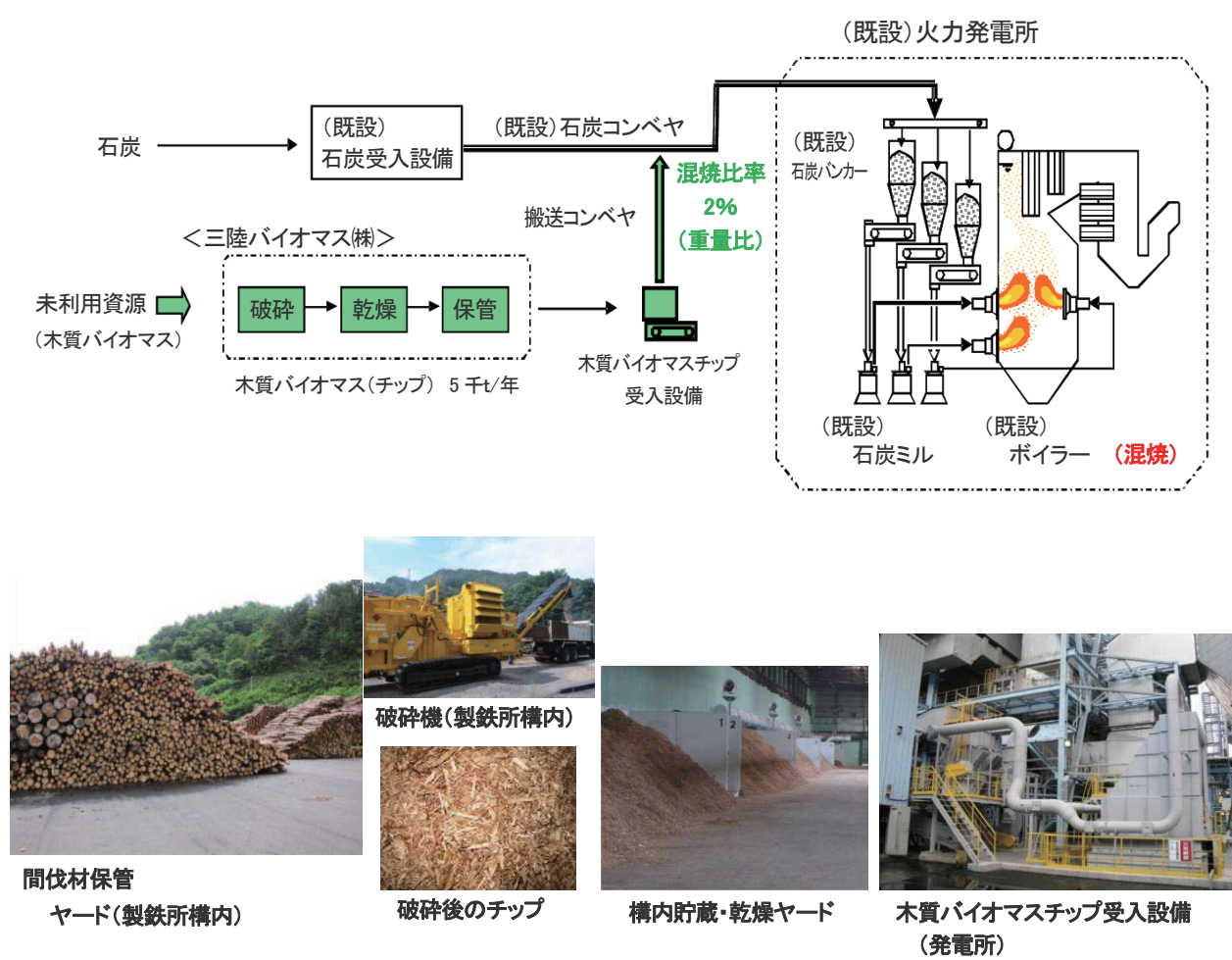


火力発電所での石炭＋木質バイオマス混焼

(計画：混焼量＝5,000 t/年、CO2 削減量＝7000t-co2/年)

(2) バイオマス混焼発電システムの概要

収集した未利用資源（木質バイオマス）は、三陸バイオマス㈱にて破碎・乾燥・保管され、木質バイオマスチップの受入・搬送設備を介して、既設の石炭コンベヤに投入（重量比2%）され、既設石炭ミルとともに粉碎されてボイラーで燃焼される。



木質バイオマス混焼実績

	平成 22 年度 (H22. 10～H23. 3)	平成 23 年度 (H23. 7～H24. 3)	備考
林地残材等集荷量 (t)	10, 081	8, 320	・ H22Fy は立上げ期間 ・ H23Fy は震災影響あり
バイオマス混焼量 (t)	1, 499	3, 952	
CO2 削減量 (t-CO2)	約 1, 400	約 5, 000	

平成 24 年度は、電力需給が逼迫する環境下で火力発電所もフル稼働が続いていることから、木質バイオマス混焼量で 5,000 t/年以上、CO2 削減量で 7,000t-CO2/年以上となる見込みとなっている。

所在地 〒026-8567 岩手県釜石市鈴子町 10-159-2

連絡先 TEL：0193-24-2332

U R L

代表者：工場長 中西 勇夫

設立（事業着手）：1983 年 3 月 18 日

活動概要

塩野義製薬（株）では、事業活動におけるエネルギー投入量や廃棄物発生量などを把握し、温室効果ガス排出量や廃棄物発生量などに対する目標値を設定して、環境負荷の低減を進めるなど全社的取組として、廃棄物の再資源化を進めている。

当金ヶ崎工場は発生する廃棄物量が、1998 年度で年間約 5,000t（うち有効利用量は約 1,900t）と非常に多かったが、生産プロセスの改善や廃棄物の種類毎の性状を適切に把握し見直した。このことにより、循環利用の大幅な拡大を実現し、廃棄物排出量を 2000 年度には年間約 3,200t にするとともに、廃棄物排出量中の有効利用量を約 2,900t に増加させた。これにより、再資源化率は約 40%から約 90%と大幅に改善した。その後 11 年間、生産量が拡大する中、種々の検討を行い、再資源化を推進したことから、再資源化率 90%を維持してきた。

廃液については、燃料や洗浄剤など有価物化を進めるとともに、燃焼助剤として有効利用した。汚泥については肥料化・セメント原料などに、廃ガラスについてはアスファルト原料に、それぞれリサイクルを進めた。また、廃プラについては、樹脂やペレット原料など有価物化を実現した。今後は、汚泥の酸化チタンの品質向上や含水率の調整などに取り組み、陶器の上薬として利用する試みを始めている。

当該事業者は、最終的には焼却処分として排出する廃棄物をゼロとすることを目標に、今後も継続してゼロエミッションの取組を継続していく方針である。

活動の様子

1. 再資源化への取組

2000 年～	廃液① ・燃焼カロリー調査および廃液の選別 ・基準カロリー数の維持管理	【有価物】燃料
	廃液② ・廃液の用途調査、廃液管理	【有効利用物】燃焼助剤
2003 年～	有機性汚泥 ・再資源化業者の調査 ・再利用の可否テスト	【有効利用物】堆肥化   《堆肥》

2005 年～	ガラスくず ・再資源化業者の調査 	【有効利用物】アスファルト原料 
2007 年～	有機性および無機性汚泥 ・再資源化業者の調査 ・再利用の可否テスト	【有効利用物】セメント原料
2010 年～	廃液③ ・再資源化業者の調査 ・再利用の可否テスト ・品質管理の徹底	【有価物】再利用 (溶剤) (洗浄剤)
2011 年～	プラスチック類 ・再資源化業者の調査 ・分別基準の設定 ・再利用の可否テスト ・分別の徹底、管理  	【有価物】樹脂ペレット原料 
今後の予定	汚泥（酸化チタン） ・処方改善（品質向上、含水率低下） ・再資源化業者の調査 	陶器の上薬、白色原料
所在地 〒029-4503 岩手県胆沢郡金ケ崎町西根森山 7		
連絡先 TEL : 0197-44-5121 e-mail : osamu.kawamura@shionogi.co.jp		
U R L http://www.shionogi.co.jp/		

代表者：代表取締役社長 安田 和久

設立：昭和45年10月

活動概要

会社の環境目的に「廃棄物削減」掲げ、全社的取組として、3Rやゼロエミッションの取組を下記のとおり実施している。

1 腕時計用の各種製品及び部品等の製造において、工程毎のテーマ設定（機械の精度、人的教育など）や具体的なアクションプランを策定して、不良品の発生を削減する活動を積極的に展開したことにより、廃棄物の発生を抑制した。（Fコストの削減）

【※Fコストとは失敗、つまり、不良品による損失のこと。】

2 精密機械の製造であることから、ほこりや金属片が付着した腕時計駆動部の運送用トレイは、今まで使用後に廃棄していたが、専用の洗浄機を使用することによって再活用する方法を確立した。

3 腕時計駆動部等に使用される成形部品において、製造工程で発生する廃棄材料である、余分なランナー部（部品を取り外した残りの枠のようなもの）を再融解・粉碎し、再生材料として利用した。

4 産業廃棄物処理業者と協議・調整し、産業廃棄物のリサイクル方法を確立した。

（活動例：生ごみの肥料化、廃プラ扱い可燃物の熔融炉処理による路材への活用など）

以上のような取り組みを行い、その成果として、2004年に廃棄物の最終処分率『ゼロ』を達成した。将来的にも、ゼロエミッションを維持・継続していく方針である。



所在地 〒020-0596 岩手県岩手郡雫石町板橋 61-1

連絡先 TEL：019-692-3511

U R L <http://www.morioka-seiko.co.jp/index.html>

代表者：工場長 信原 正樹

設立：活動期間 1990年～2012年

活動概要

コマツ小山工場は、1990年頃から工場で発生する「産業廃棄物」のリサイクル活動を開始し、様々な工夫や、全員参加による徹底的な分別活動（79分別）。発生量を削減する活動。資源化としての活用推進を積極的に進め、2000年の11月に建機業界で初めてリサイクル率100%を実現し、「ゼロエミッション活動」を達成した。現在11年間維持継続中である。

まさに、廃棄物から資源化へという大転換を図ることができた。「循環型社会に向けた一歩」を、本工場から発信している。また活動のノウハウは自社に留めず、活動参加企業への普及・啓蒙活動での積極的な支援、協力をしながら裾野の広い「ゼロエミッション活動」を進めている。

①ゼロエミッション活動の経緯(1990年～2001年)

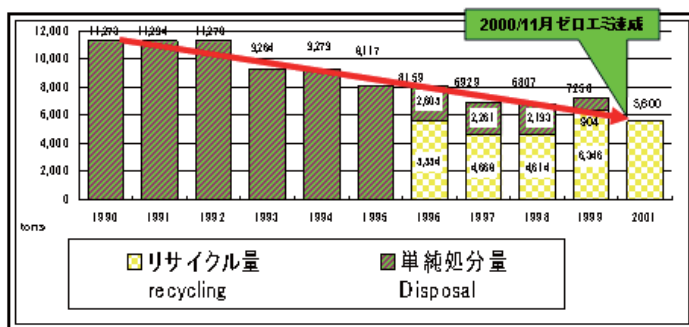
小山工場のゼロエミッション活動

【定義】工場から発生する産業廃棄物の「埋め立て処分」

廃棄物の課題

「単統焼却処分」をゼロレベルとする。

1996年頃からリサイクル活動を加速させたが、「埋め立て・焼却」処理から脱却できず、処分費用も高止まりの状態。

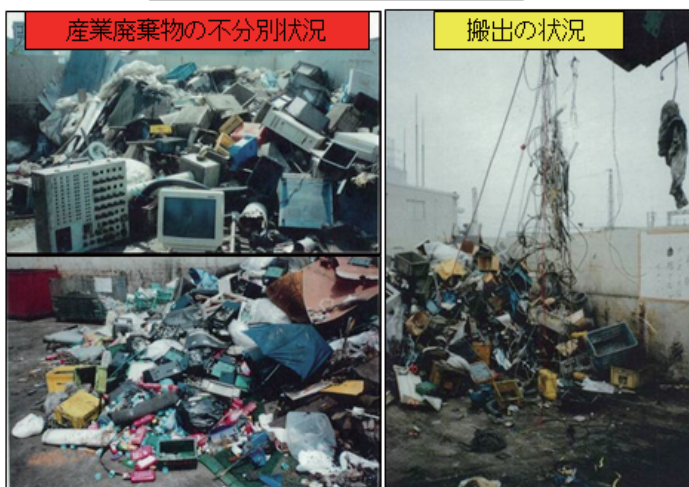


1990年に紙の5分別活動を開始し、リサイクル活動が開始された。しかし、大量に発生する産業廃棄物の「埋め立て処分・焼却処理」から中々脱却できず、リサイクル活動が進まず、行き詰まり状態が長年続いてきた。90年代の後半には廃棄物の処理が社会問題となり、間接被害・直接被害として取り上げられ、企業生命を左右するような問題も発生することとなった。

コマツも、ゼロエミッション活動の本格的な調査・推進を開始し、小山工場がモデルとなり2000年11月にリサイクル率100%を達成した。活動は、全コマツ

の国内工場に水平展開され2011年には全ての工場で「ゼロエミッション活動」に挑戦し、この偉業を成し遂げている。

1990年代半ば頃の廃棄物置場



産業廃棄物の不分別状況

搬出の状況

左記は1990年代半ば頃の状況である。工場内の集積場は分別されず、毎日が「産業廃棄物の山積み」状態で、それを委託業者が処分するという状態が当たり前であった。廃棄物の中身を調査すると、分別することにより資源として再生可能な部分と、有価物として売却可能な部分があることもわかり、全工場での「ゼロエミッション活動」への挑戦を掲げ、全社員の工夫と努力でこの難局を乗り越えることとした。又コマツのモデル工場との位置付けで、社員全員の意識改革・方向性を統一し、活動を開始した。同業等でこの活動を経験

している企業は無く、コマツ小山工場独自の活動を考案して進めた結果、目標を2年前倒して達成することができた。

②3R活動＋ゼロエミッション活動の進め(2002年～2012年)

現在のリサイクルセンター内部 (2012.10)

廃棄物と言う名称は使用禁止



見やすく、置きやすく、わかり易く

は禁止とした。全て「資源」に回帰である。ゼロエミッション活動の大きな成果は、分別することにより発生する非鉄金属・希少金属の回収による有価物の発生である。

ゼロエミッション活動を進める時に大事な事は、分別した物の置場・き方をきちっと決める事である。分別方針は、自分の廃棄物は自分で分別することが基本であり、他に分別する人は置きません。そこで左記の様に置場を整備し、名称も「リサイクルセンター」に改名し、見やすく、置きやすく、わかり易くを基本に分別標準や分別モデルを作り、分別品を置きに来た人が迷わないよう工夫をした。効率化も考えたレイアウトで運用できるようにした。又、リサイクルセンターの中では廃棄物と言う名称の使用



難処理物置場

合成物・解体物

「難処理物」も徹底的な分別・解体



椅子の解体

高価売却

非鉄金属の回収

で有価資源の回収。

非鉄金属回収



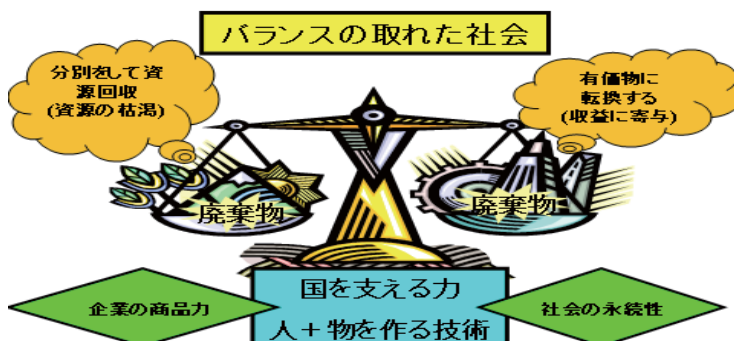
「廃棄物から高価な有価物資源」への大転換を図ることも活動を進める上でやる気を出すポイントとなる。非鉄金属を効率良く回収するために専用分別場の設置・分別する装置の導入を進め、売却物の増加につなげ工場の収益に大きく貢献している。「循環型社会に向けた一歩」をコマツ小山工場から「3R活動＋ゼロエミッション活動」の普及啓蒙活動として活動参加企業への積極的な支援、協力をおこなっている。

「地球資源」が減少していく全人類的な課題に対し、将来の世代に貴重な資源を手渡していく、という当たり前の活動として、ゼロエミッション活動は有効であると思う。

地球資源の枯渇を見据えたこの活動と分別技術を大いに活用し、次の世代に「すばらしい地球資源」を手渡したいものである。

この活動は、海外工場も含めた「オールコマツ」の活動へと、普及拡大中である。

循環型社会に向けた一歩!コマツから



所在地 〒323-8558 栃木県小山市横倉新田400 株式会社小松製作所小山工場

連絡先 TEL:0285-28-8155

e-mail: shinichi_kobayashi@komatsu.co.jp

URL <http://www.aleph-inc.co.jp/>

代表者：代表取締役社長 佐治 信忠	代表取締役 古澤 栄一
設立：2009 年 2 月（創業 1899 年）	1985 年 10 月

活動概要

① 事業の概要

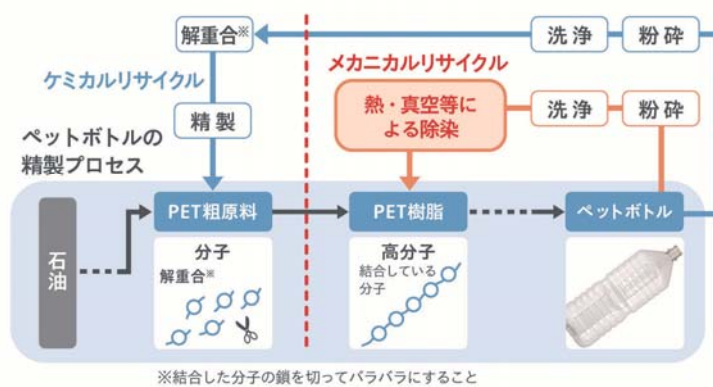
サントリーは、回収ペットボトルを新生ペットボトルとして再生する「ボトル to ボトル」の確立に向けて協栄産業と連携。日本で初めてとなる「メカニカルリサイクルによるボトル to ボトルの水平循環システム」を構築しました。

<メカニカルリサイクル再生PET樹脂100%の“リペットボトル(※)”導入>

家庭から回収する貴重なペットボトルは、多くが海外へ流出し、国内でも再生樹脂の多くが衣服や卵パックなどボトル以外の用途に使われています。2009 年、サントリーは、これを見直し、回収ボトルを新生ペットボトルとして再生する「ボトル to ボトル」の確立に向けて取り組みを本格化。その原動力となったのが「メカニカルリサイクル」という新技術です。これは従来の「ケミカルリサイクル」が回収ボトルを化学的に分子レベルまで分解して再び樹脂を作るのに対し、「メカニカルリサイクル」はPET樹脂（高分子）のまま、中に深く入り込んだ不純物を高温・真空の中で吸い出し、純度の高い樹脂に再生する方法です。いわば、工程を大幅に短縮して製造エネルギーを節約するのです。サントリーは、この技術を確立した協栄産業と連携して、メカニカルリサイクル樹脂とケミカルリサイクル樹脂を50%ずつ混合した「リペットボトル」の開発に成功。2011 年 5 月「サントリーウーロン茶」2ℓに採用しました。そして、約1年間の運用で「リペットボトル」の高い安定性が生産・流通・消費の全段階で認められたため、メカニカルリサイクル樹脂の使用率を100%に引き上げました。これにより、PET樹脂の製造時を含むCO2排出量を石油由来原料100%のボトルと比較して83%削減できる再生ペットボトルの製造を可能にしました。現在では、ウーロン茶に加え、「伊右衛門」の一部にも採用を拡大しています。

※市場から回収したペットボトルのメカニカルリサイクルによる再生PET樹脂を原料として50%以上使用したペットボトル

2012 年 4 月には技術情報を一般公開し、国の「メカニカルリサイクルガイドライン」策定にも参画しています。これらの取り組みを通じて、新技術を飲料業界に広く普及させ、社会におけるPETボトルの水平循環システムの拡大に今後とも貢献していきたいと考えています。



リサイクル手法によるPETボトル再生工程の違い



「サントリーウーロン茶」2Lに採用

サントリーホールディングス株式会社

協栄産業株式会社

所在地 〒135-8631 東京都港区台場 2-3-3

〒323-0807 栃木県小山市城東 2-32-17

連絡先 TEL : 03-5579-1513

TEL : 0285-22-7988

U R L <http://www.suntory.co.jp>

<http://www.kyoei-rg.co.jp>

代表者：代表取締役 熊木 浩

設立：平成16年4月30日

活動概要

【活動の背景】

我国の食料自給率は40%前後と低い水準で推移しています。食料の多くを輸入に依存しているにもかかわらず、全国で発生する食品廃棄物の量は年間約2,000万トン以上にのぼります。

その多くの食品廃棄物は焼却処理され、温室効果ガスの増大による地球温暖化が大きな社会問題となっています。

こうした状況を背景に国は、食品廃棄物の発生を抑制するとともに、食品循環資源の有効利用を促進することで、環境への負荷を低減、持続的発展ができる循環型社会の構築を目指すことを目的に食品リサイクル法を制定しました。食品リサイクル法は、食品関連事業者に対し排出される食品廃棄物の発生抑制と減量化により最終処分量を減少させるとともに、飼料や肥料等としてリサイクルを図ることが目的とされています。

【活動の概要】

株式会社アルフォ・城南島飼料化センターは、都内を中心に廃棄物の収集運搬・中間処分業を展開する㈱東京クリアセンターの100%出資会社として平成18年4月から食品廃棄物の飼料化事業を開始しました。

食品リサイクル法の対象となるホテル、レストラン、スーパー、コンビニ等から排出される調理残さや賞味期限切れ商品などと、食品製造工場等から排出される製造過程のロス（動植物性残さ）を受け入れ、廃食用油を間接熱媒体として乾燥機により食品廃棄物に含まれる水分を蒸発乾燥処理します。乾燥後の製品は養鶏・養豚用の配合飼料原料として流通し、国内の食料自給率向上に寄与しています。

また、アルフォで1年間に受入・処理する食品廃棄物は、都内の食品廃棄物発生量の約4.2%に相当し、大量の食品廃棄物を焼却処理せずに資源化することで、焼却によるCO₂の発生量を削減したことが東京都より実証されています。

施設は多量排出者が集中する都内臨海部に位置しており、地方処理施設への長距離輸送を必要としないため、間接的にもCO₂の削減に貢献しています。



食品廃棄物の分別排出



油温減圧式脱水乾燥機

【活動の実績】

項 目	実 績
食品廃棄物の受入量	31,500トン／年（23年度）
配合飼料の製造量	6,200トン／年（23年度）
CO2削減効果	12,000トン-CO2（H19年度からH21年度の3年間） ※東京スーパーエコタウン廃棄物処理施設の温室効果ガス削減効果算定調査報告書による
施設見学者数	935名／年（23年度） ※小学校の社会科見学でも広く利用していただき、環境学習の一環として貢献
地域奉仕活動	毎月2回 施設周辺の清掃活動を実施
認証	・国から「再生利用事業計画」の認定を受け、食品関連事業者・飼料化施設・配合飼料メーカー・畜産農家と連携して循環型社会の構築に貢献（23年2月） ・東京都の第三者評価制度による「産廃エキスパート」の認証取得（23年12月） ・エコアクション21認証登録（24年11月）

【活動の様子】



定期的に開催する見学会



施設周辺の清掃活動



食品廃棄物を乾燥・製品化した配合飼料原料



製品の出荷先(畜産農家)

所在地 〒107-0052 東京都港区赤坂二丁目5番1号 赤坂東邦ビルディング

連絡先 TEL: 03-5561-1888

e-mail: ttanami@alfo.co.jp

U R L <http://www.alfo.co.jp>

代表者：大田 弘

設立（事業着手）：昭和13（1938）年1月

活動概要

当社は、1997年より全作業所において3Rを推進し、ゼロエミッション（「業界の定義」建築工事：混合廃棄物の排出量が延べ床面積あたり10kg/m²未満、土木工事：混合廃棄物の排出量が工事金額あたり0.5t/億円未満）の達成を目指しております。

作業所の活動として、計画段階で「ゼロエミッション活動計画書」を作成し、中間報告として「ゼロエミッション活動実施状況を提出させ、竣工時（終わりに）「ゼロエミッション活動最終報告書」により、最終報告しています。

（2011年度の活動結果）

- ・建築工事：5.64kg/m² 土木工事：1.51t/億円
- ・ゼロエミッション達成率：177作業所/216 作業所＝81.9%の達成率

活動の様子

<事例-1>

【鶴見大学附属中学・高等学校校舎建設工事のゼロエミッション活動内容】

テーマ：協力会社と一体となった、積極的に混合廃棄物の削減を計る



分別講習会の様子

処理業者の分別専門チームが、事細かく説明をされました。特に、資材の種類の多い廃プラスチック類については、現物を見せて説明されていました。講習会は、月に1回開催されています。



分別状況の確認の様子

処理業者の分別専門チームが、一つ一つ分別内容を確認されていました。分別が不十分な物は取り除き、分別講習会で指導します。



産業廃棄物保管場所

現場担当者が、処理業者と打ち合わせにて、産業廃棄物保管場所（エコステーション）を設置します。工程の進捗状況で品目を変えることにより分別し易くなり分別率も高くなります。分別率は毎月表示されます。



作業員の分別の様子

毎月分別する作業員に対して優良分別賞を授与しています。表彰することで、作業員の分別意識が高まり、分別が徹底される様になりました。また、その結果、作業場の整理・整頓が、尚一層促進されました。

<事例-2>

【福知山道路岡改良工事のゼロエミッション活動内容】

テーマ：負荷の少ない資源循環型社会を目指す



3R 取り組み紹介の様子

ゼロエミッションへの取組みを一般公開しました。数多くの子供と大人が参加し、3Rの取組みを熱心に聞いていました。また、産業廃棄物保管場所（エコステーション）の分別状況を見た子供達から「このゴミは最終的には、どうなるんですか？」といった質問が活発に飛び交いました。

《活動を広げるための取組み》

事例1、2のような取組みを広げるために、イントラ等で全社的に水平展開し、また、その中でも特に活動の顕著な作業所については、社内表彰制度で表彰しています。また、平成22年5月31日に環境省から建設業界で初めてエコ・ファースト企業に認定されました。

所在地 〒162-8557 東京都新宿区津久戸町2-1

連絡先 TEL:03-3235-8114 e-mail:mnozo@ku.kumagaigumi.co.jp

U R L <http://www.kumagaigumi.co.jp/>

東京ボードグループ『東京ボード工業株式会社』

代表者：会長 鈴木 吉助

設立：昭和 22 年 5 月

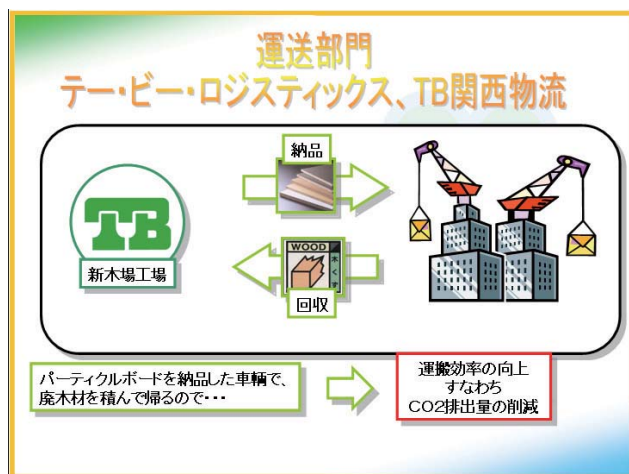
活動概要

従来 廃棄物として排出される廃木材は、焼却・埋立て処理されるのが主流でした。東京ボード工業(株)では、役目を終えた廃木材をパーティクルボードの原料として再生利用しています。特に建設現場から発生した廃木材は、製品（JIS 製品）として再度建設現場で建材として使用され、同一現場での廃木材の循環システムを大手ゼネコンと構築しました。

また、弊社の『目に見えるリサイクル』は建設業に限らず、廃木材を排出される多くの事業者様から御支持をいただいています。

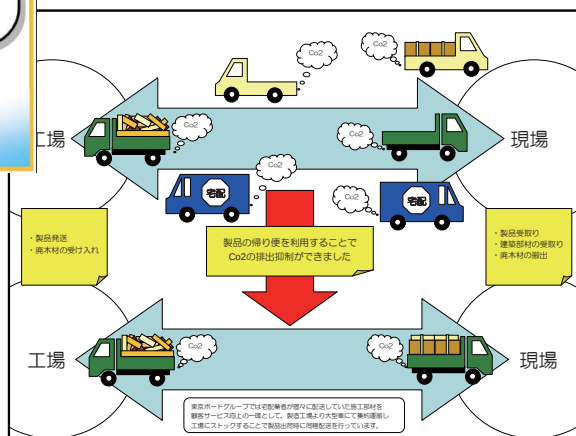


基幹の新木場リサイクリング工場では、約 10,000 坪の敷地内で廃木材の処理及びそれを原料として PB の生産をしています。同一の敷地内で処理および生産をしているので、木質チップの二次運搬がないので CO2 の排出がなく、不法投棄の心配もありません。



これにより CO2 はもちろん排気ガスの発生を半分にすることができました。このシステムは関東圏に留まらずグループ会社の TB 関西物流(株)を通じて関西圏の大手ゼネコンとも同様の取り組みをおこなっています。

また、弊社グループ会社のティー・ビー・ロジスティクス(株)を通じて、製品を配達したあとに同じ車輜で廃木材を回収しています。



活動の様子

建設現場に製品を配達したあと、同じ車輌で廃木材を回収しています。



①建設現場に製品到着



②製品の荷降し



③荷降し後、廃木材積み込み

TBG は、下記の活動を通じて地球温暖化防止に努めています。

「法人の森」計画。森林整備による CO2 吸収量認定制度への参加（平成 20 年より平成 25 年まで）



植林したエリアの下草刈

TBG では、間伐材・林地残材を焼却される前に再生利用（製品化）しています。製品にすることで CO2 を出さずに固定することが出来ます。その間 植林活動をし、育林することで CO2 を吸収させ減らすことが出来ます。



所在地 〒136-0082 東京都江東区新木場 2-11-1

連絡先 TEL:03-3522-4138

U R L <http://www.t-b-i.co.jp/>

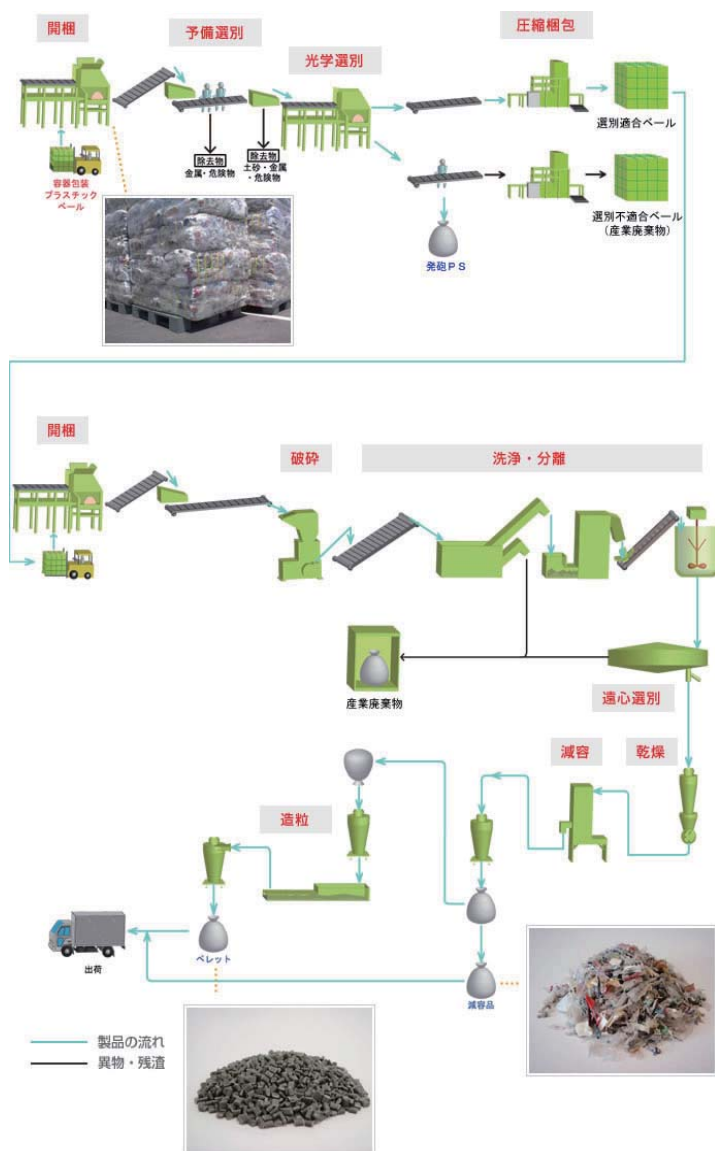
代表者：田代 浩二

設立（事業着手）：昭和 40 年 4 月創業 法人設立昭和 41 年 8 月

活動概要

弊社は昭和 40 年の創業以来、一般廃棄物や産業廃棄物の収集運搬、リサイクル等の中間処理・再資源化事業を展開し、廃棄物の適正処理及び減量化の推進、再生資源の有効利用を進めています。

平成 8 年以降、より積極的に推進し、平成 9 年の容器包装リサイクル法（以下容リ法）の一部施行を受けてペットボトルのリサイクルを開始し、平成 12 年には容リ法の完全施行に伴いプラスチック製容器包装のリサイクルに取り組み(添付フロー図参照)、微力ながら廃棄物の発生抑制・再利用・再資源化（3R）の普及促進、循環型社会形成のため事業を展開しています。



プラスチック製容器包装のリサイクルは、一般家庭から排出される容器包装廃棄物(プラスチック廃棄物)からプラスチックの再生材料(ペレット及び減容品)を製造し、成形メーカーや原料加工事業者へ納入しています。この再生ペレット及び減容品はパレット、建材(断熱ボード、OA用フロア、屋根下地材等)、雨水貯留槽、医療廃棄物用ボックス等製造の材料として使用されています。(製造する品目により使用する再生ペレット及び減容品の使用率は異なります。)

平成 22 年 5 月には ISO9001 を認証取得して、より一層の品質管理の徹底を図っています。

平成 22 年度、23 年度と新潟市のゴミ減量化・3R 普及啓発活動の一環として、市内各区自治会・町内会のクリーンにいがた推進員の皆さま（各年度約 500 名）の工場見学をお引き受けし、新潟市のゴミ減量化・3R 普及啓発活動のお手伝いをしています。今年度は普及啓発活動用の DVD の撮影に協力しています。



平成 14 年 3 月に ISO14001 を認証取得して以来、環境負荷の低減にも継続的に取り組んでいます。

環境負荷物質の把握

No	項目	測定項目	頻度	管理目標値	4月度	5月度	6月度	7月度	8月度	9月度	10月度	11月度	12月度	1月度	2月度	3月度	年間累計
1	騒音	敷地境界部の騒音 (dB(A))	1回/月	60 dB(A)	実績値 57.9	56.4	58	56.9	56.7	57	57.5						
				評価	○	○	○	○	○	○	○						
2	振動	敷地境界部の振動 (dB(A))	1回/年 (7月)	60 dB(A)	実績値 -	-	-	46	-	-	-						
				評価	-	-	-	○	-	-	-						
3	悪臭	敷地境界部での臭気濃度	1回/年 (6月)	20 以下	実績値 -	-	16	-	-	-	-						
				評価	-	-	○	-	-	-	-						
4	ボイラーの排ガス	ばいじん	1回/年 (5月)	0.3 g/Nm ³	実績値 -	0.01未満	-	-	-	-	-						
				評価	-	○	-	-	-	-	-						
5	排水処理 放流水の水質	(1) pH	1回/2ヶ月	5.8~8.6	実績値 -	7.9	-	7.7	-	8	-						
		(2) BOD		20 mg/L以下	実績値 -	17	-	2	-	0.5未満	-						
		(3) COD		80 mg/L以下	実績値 -	56	-	10	-	16	-						
		(4) SS		20 mg/L以下	実績値 -	9	-	1未満	-	2	-						
		(5) n-ヘキサン		30 mg/L以下	実績値 -	1未満	-	1未満	-	1未満	-						
				評価	-	○	-	○	-	○	-						
6	リサイクル率(向上)	再資源化率	1回/月 年平均	47.46 %以上	実績値 51.57%	49.06%	49.68%	49.30%	48.14%	48.82%							
				評価	○	○	○	○	○	○							
				平均値	51.57%	50.32%	50.10%	49.90%	49.55%	49.43%							
				評価	○	○	○	○	○	○							
7	廃棄物排出量削減	廃棄物発生量	1回/月 発生率	473,969 kg/月以下 (5,687,628kg/年以下) 68.6 %以下	実績値 414,789	403,781	420,580	398,700	413,120	409,740							2,460,710
				評価	○	○	○	○	○	○							
				発生率	65.41%	58.87%	60.34%	58.38%	60.03%	59.64%							60.45%
				評価	○	○	○	○	○	○							
8	CO ₂ 発生量 (工場使用起源によるもの)	(1) 電気(t-CO ₂)	1回/月	195t-CO ₂ /月以下 (2,340t-CO ₂ /年以下)	実績値 188.1	177.5	184.4	182.8	179.9	180.7							1093.4
		(2) A重油(t-CO ₂)		17t-CO ₂ /月以下 (204t-CO ₂ /年以下)	実績値 16.3	10.8	10.8	5.4	5.4	5.4							54.1
		(3) 軽油(t-CO ₂)		4t-CO ₂ /月以下 (48t-CO ₂ /年以下)	実績値 3	3	3.4	2.9	3.3	3.1							18.7
				評価	○	○	○	○	○	○							
9	消費係数単位低減 (工場使用起源によるもの)	(1) 電気(kwh/t)	1回/月	637kwh/t以下 (7,644kwh/t年)以下	実績値 634	603	617	624	609	613							3700
		(2) A重油(L/t)		10.4L/t(月)以下 124.8L/t(年)以下	実績値 9.5	5.8	5.7	2.9	2.9	2.9							29.7
		(3) 軽油(L/t)		2.3L/t(月)以下 27.6L/t(年)以下	実績値 1.8	1.7	1.9	1.6	1.8	1.7							10.5
				評価	○	○	○	○	○	○							
10	化学物質使用量削減	(1) 含鉛PAC使用量	1回/月	8.3kg/t(月)以下 99.8kg/t(年)以下	実績値 8.1	8.3	8.3	7.7	6.8	6.5							45.7
		(2) 苛性ソーダ使用量		31kg/t(月)以下 372kg/t(年)以下	実績値 3	3	3.1	1.9	2.4	2.4							15.9
				評価	○	○	○	○	○	○							

※ 6. 再資源化率の目標値はH23年度実績値から設定
 ※ 7. 廃棄物発生量の目標値は (H24年度廃棄物発生量×H23年度実績率)/12ヶ月 で設定
 ※ (廃棄物発生率は、H23年度実績値を基に設定)
 ※ 8・9. 軽油については工場内で使用される量で評価(社外運輸車輛については目標設定が困難なため除外)
 ※ (目標値は、H23年度実績値で設定)
 ※ 10. 化学物質使用量の目標値はH23年度実績値から設定
 ※ 15.0の運用・活動にある「灯油、ガソリン」については工場活動以外での使用のため除外

今後とも皆さまのご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

所在地 本社 〒958-0837 新潟県村上市三之町 8-11

リサイクル事業本部 〒950-3101 新潟市北区太郎代字山辺 856-2

連絡先 TEL:本社 0254-52-4520 リサイクル事業本部 025-255-2469

e-mail:info@j-axyz.co.jp

U R L <http://www.j-axyz.co.jp/>

代表者：工場長 中出 誠

設置（活動開始時期）：平成 5 年 4 月

活動概要

（株）ガイアート T・K 福井合材工場では、事務所から発生する一般廃棄物の可視化により、再生資源化を促進するとともに工場内の重機トラックの廃棄油を回収の上、精製した再生油をアスファルトプラントのバーナー燃料に切り替え、サーマルリサイクルとして利用しています。

受賞のきっかけとなった活動の内容を紹介します。

■ 福井県坂井市との連携による、ゴミ可視化で一般廃棄物の再生資源化促進。

- ① 一般廃棄物の再生資源化促進を目的に、坂井市と協議をおこない集積所を工場内に設置した。また、可視化することで再生資源化を促進し、一般廃棄物の排出量を 40% に削減した。



工場敷地内のゴミステーション

■ 天然資源のリサイクルと高効率利用

- ① 工場内で稼動する重機、トラックの廃棄油を、再利用するため回収し精製後、再生油としてバーナー燃料に切り替え、サーマルリサイクルとして利用している。
- ② ①で使用する油をさらに効率よく活用するために、高効率の燃焼バーナーを導入し、又、燃焼させた熱をさらに効率よく使用するため、排気煙道を改造し、排気熱（捨ててしまう熱）を再利用して、原単位（製造数量）当たりの燃料使用量を抑制している。



再生油タンク設備



高効率バーナーと排気熱の再利用

■ 再生骨材を材料として活用している。

- ① 地域道路工事より発生した廃材（産業廃棄物）は、再生骨材から再生アスファルト合材として地域道路にリサイクルされている。



再生骨材等使用資材のストックヤード

■ 敷地内の雨水を利用することで、上水道の使用削減、ヒートアイランド対策実施。

- ① 工場敷地内に降る雨水を、ストックヤードの雨どい等から水タンクに貯水し、場内での粉塵発生抑制、ヒートアイランド対策に利用することで、上水道の使用を抑制し間接的な天然資源使用抑制を実施している。



雨水の備蓄タンク

所在地 〒910-0375 福井県坂井市丸岡町南横地 8-1

連絡先 TEL : 0776-66-2516

e-mail : mnakade@gaeart.com

U R L <http://www.gaeart.com/>

代表者：林 宏道

設立（事業着手）：昭和 43 年 19 日

活動概要

事業内容

産業廃棄物・特別管理産業廃棄物中間処理業、収集運搬業

製造業、特にその表面処理工程で使用される薬品の劣化による廃棄＝廃液の回収及び処理・リサイクルを行っています。

■ 中間処理業

主な処理品目

廃酸・廃アルカリ廃液（強酸、強アルカリ、特定有害物質含有）

主な業種

鍍金業、プリント基板製造業、半導体製造業など

■ 収集運搬業

関東甲信越を中心に広い営業エリアで事業を展開しています。

営業許認可自治体

長野県、長野市、福島県、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都

神奈川県、新潟県、富山県、山梨県、岐阜県、愛知県、三重県、大阪府

北九州市

■ 資源循環事業

今まで適正処理にまわっていた廃液には再使用可能な金属類が溶け込んでいます。

この金属を廃液の中から回収するのが当社の資源循環事業となります。



写真は廃液からニッケルや銅を回収するための装置です。

難易度の高い制御技術を導入、管理により廃液からの金属回収を実現しました。

活動の様子



写真は廃液から銅を回収するための装置です。



10円硬貨と同様の輝きをもつ純度の高い銅が回収できます。

当社では今後も捨てられてしまえばゴミとなってしまう廃棄物の中から有用な資源を回収し、循環型社会実現に向けての取り組みを進めて参ります。

所在地 〒381-0022

連絡先 TEL : 026-221-3838 e-mail : hayashi@MISUZUKOGYO.CO.JP

URL <http://misuzukogyo.co.jp>

直富商事株式会社

代表者：代表取締役 木下 雅裕

設立：昭和 23 年

活動概況

直富商事は「美と心地よさ、笑顔で花を咲かせよう、全ての廃棄物を再資源化」を合言葉に静脈産業の総合商社として、日々循環型社会形成推進のために努力を重ねています。金属・プラスチック・古紙等のリサイクルはもとより、近年はBDF製造、生ごみ・動植物性残さの飼料化及び堆肥化の2工場が稼動し、又、PC等の廃OA機器の分解再資源化を行っています。今後もリサイクル推進の啓蒙活動を積極的に展開し、市民の皆様と一緒にリサイクル拡大に一層努力してまいります。

1. 新しいリサイクル施設

◎BDF製造

業務用・家庭用の廃食用油を精製して塗料原料とBDFを製造しています。

BDFによる長野市内走行(アルピコバス)



当社で製造したBDFを使った定期バスが長野市内を走っています。

◎飼料と堆肥の製造

生ごみを原料に、『堆肥専用機械』と『飼料専用機械』で堆肥と飼料を製造しています。お客様のリサイクルに対しての深いご理解により、しっかりした選別をさせていただいているため、非常に優れた製品が出来上がっています。



2. 信州環境フェアへの出展



一般市民の皆様方へリサイクル推進の啓蒙活動を積極的に行うため、毎年長野市で行われる『信州環境フェア』に出展し、資源リサイクルのPRに努めています。

最近の展示では以下のようなものがあります。

- ① 廃食用油リサイクルBDF製造
家庭や業務用のてんぷら油のリサイクルをアピールしました。
- ② 生ごみから飼料・肥料の製造
家庭はもちろんホテル、スーパー、レストラン等からの生ごみも立派な資源になることをアピールしました。

3. 小学生や各種団体のリサイクル勉強見学会の受け入れ



古い銅線からピカピカに生まれ変わった銅粒を見て驚く小学生。子供たちの目の輝きは本当に印象的です



毎年、長野市内及び近郊より小学4年生を中心とした学生のリサイクル勉強会の受入れを行っております。
見学される子供たちの心の中に、物を大切にする気持ちが少しでも芽生えれば、それだけで大きな成果です。



見学後の勉強会では、大人の固定観念を超えた予想もしない発想や、係員が返答に困って頭の中が真っ白になる難問奇問珍問の質問の数々が、とても新鮮です。

～消費者団体等各種団体の見学受け入れも行っており、
リサイクル啓蒙活動に広く協力しています～



消費者団体のご婦人の皆様方約30名様にも生ごみの飼料工場を見学していただきました。生ごみを豚の餌にするリサイクルをご覧いただきましたが、工場内が生ごみ特有の不快な臭気が無いことに、一様に驚いておられました。

4. 周辺住民の皆様にも工場開放のイベントを開催しています。

『直富商事ふれあい祭り』を開催し、日頃なかなか馴染みのない工場内のリサイクル設備・施設等を見学していただき、リサイクル処理の様子を実際にご覧いただきました。



地元地域より大勢の皆様がご来場されました。



少しは楽しんでいただけたかと思います。

技術研究室（環境計量証明事業所）では
親子で石鹼作りに挑戦してもらいました。



本社所在地 〒381-0022 長野県長野市大字大豆島3397番地6

連絡先 TEL : 026-222-1880 e-mail : info@naotomi.co.jp

U R L <http://www.naotomi.co.jp>

代表者：松岡 重吉

設立：昭和 25 年 1 月

活動概要

松岡コンクリート工業(株)は、経営理念である「環境企業をめざす」に基づいて、岐阜県、愛知県、三重県、静岡県、滋賀県にまたがる事業基盤を背景に、平成 13 年 4 月から、「廃棄物も地産地消」を基本として、5 県で発生する主要産業廃棄物の再利用によるコンクリート製品化というリサイクル事業の研究開発に着手し、平成 14 年から活動に移しました。

主となる活動と致しまして、

1. 溶融スラグ等のリサイクル事業

溶融スラグをはじめ、その他の各県より発生するリサイクル資材を用い、生コン 1 m³の質量中に 10%のスラグを入れたコンクリート二次製品を製造・販売を行って参りました。

平成 15 年 12 月岐阜県リサイクル認定取得（本社工場）年間平均使用量 98 トン
平成 16 年 8 月愛知県リサイクル認定取得（本社工場）年間平均使用量 100 トン
平成 17 年 3 月三重県リサイクル認定取得（三重工場）年間平均使用量 300 トン
平成 19 年 8 月愛知県リサイクル認定取得（愛知工場）年間平均使用量 100 トン
平成 19 年 8 月愛知県リサイクル認定取得（三重工場）年間平均使用量 150 トン
平成 22 年 10 月静岡市リサイクル認定取得（愛知工場）年間平均使用量 70 トン
平成 23 年 12 月浜松市リサイクル認定取得（愛知工場）年間平均使用量 20 トン



「三重県認定書」



「材料」

また、溶融スラグ等のリサイクル事業に追加をする形で、

2. 鉄鋼スラグのリサイクル事業

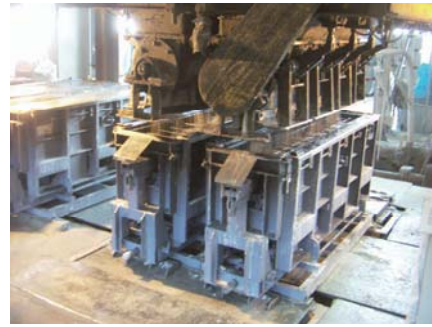
鉄鋼会社から排出される鉄鋼スラグを用い、これも生コン 1 m³の質量中に 10%のスラグを入れたコンクリート二次製品を製造・販売も開始し、事業化活動をしております。

平成 19 年 8 月愛知県リサイクル認定取得（三重工場）年間平均使用量 1790 トン
平成 21 年 8 月愛知県リサイクル認定取得（愛知工場）年間平均使用量 930 トン

上記とは違う形での取り組みとして、

3. 工場の騒音・振動防止による工場内・周囲の環境配慮

製品製造時に発するバイブレーター（コンクリートの振動締め固め装置）の騒音が約 120db ともなり、業界として工場周辺の住環境に大きな悪影響を与えて参りました。この問題への取り組みとして、名古屋工業大学の協同研究により、水平振動式締め固め装置（シェイクレター）の開発に成功し、工場内・周囲への騒音が 60db にまで軽減でき、1997 年には、（財）新技術開発財団よりアイデア技術開発助成の認定を受けました。また、2000 年（財）あさひ中小企業振興財団より優良賞、2010 年（財）日本コンクリート工学協会より技術賞の受賞を頂きました。



さらに、京都議定書にも掲げられた地球温暖化対策を率先して取り組み、CO₂削減にも成果を上げております。

4. CO₂削減環境に配慮した工場

コンクリート製品の製造工程で、重油を焚きボイラー蒸気による促進養生を行う製造方法が全国一般的ですが、当社は、自然養生を主とした製造方法に取り組むことで、重油ボイラーを使わなくて済み、その結果CO₂を出さない製造方法により会社全体で43%のCO₂の削減が実施できています。

また、産学協同の製品開発を行い、地球温暖化防止対策にも力を注いでおります。

5. 太陽熱を再帰反射させる塗料の開発で温暖化防止

名古屋工業大学岩尾教授の共同開発により 2007 年遮熱塗料ロードクーラーを研究開発しました。ロードクーラーは太陽熱を再帰反射させる塗料で宇宙に反射し、昇温・蓄熱しない仕様で、涼しい都市造りに貢献します。2008 年 11 月「NOBUNAGA 21 ベンチャービジネス助成金」の部門で最優秀賞受賞、2008 年 9 月 9 日東海テレビ「スーパーニュース」の番組で「特殊ペンキで太陽熱を反射」と題し紹介されました。また 2009 年 7 月 28 日 NHK ワールドの NEWS LINE 番組で「COOLING HOTCITIES」と題し世界 80 ヶ国に放映され大きな反響を得ました。その他 NHK ほっとイブニング岐阜の番組で取り上げられ、或いは、中日新聞・朝日新聞・岐阜新聞・その他各社の新聞で取り上げられ、現在全国 23 社（海外 1 社）で事業展開を行っています。

実績としまして、20 年度から換算し 24 年現在までで累計 93 件 46,544 m²もの施工実績があり、県市町村の案件から、民間企業、個人住宅に至るまで、更には韓国の釜山市役所でも御採用頂きました。



上記 1～5 までの取り組みに留まる事なく、「環境企業をめざす」の経営理念をこれからも邁進し、循環型社会形成の普及啓発、促進に努力をして参ります。

所在地 〒503-0111 岐阜県安八郡安八町西結 1 1 9 6（本社工場）

連絡先 TEL：0584-62-5007 FAX：0584-62-5265

U R L <http://www.cm-con.co.jp/>

代表者：代表取締役執行役員社長 舟橋 明憲

設立（事業着手）：平成13（2001）年12月

活動概要

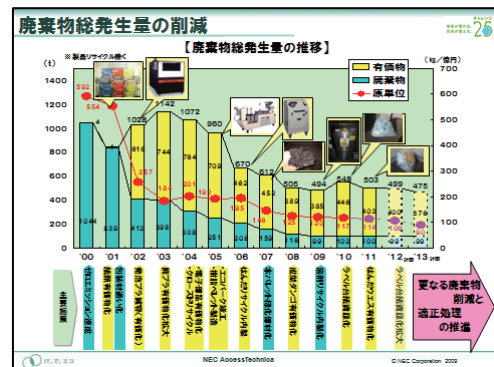
当社は「未来の子供たちに豊かな地球環境と住みやすい持続可能な社会を残す」ことを目的に、社内における資源循環推進活動や行政との協働による環境意識啓発活動など環境保全活動を積極的に展開し「環境配慮経営」を実践しています。

1. 資源循環推進活動

「何も捨てない」「何でも作る」をスローガンに資源循環活動を推進しています。

（1）3R推進

2001年より全従業員への廃棄物教育に取り組み素材毎に分別（48種類）して有価物化したことで、廃棄物量を91%（2011実績/2003比）削減しました。また、包装材を「通い化」や「簡素化」するリユース・リデュース活動も積極的に展開し、有価物量も含めた廃棄物等総発生量を66%（2011実績/2003比）削減しました。

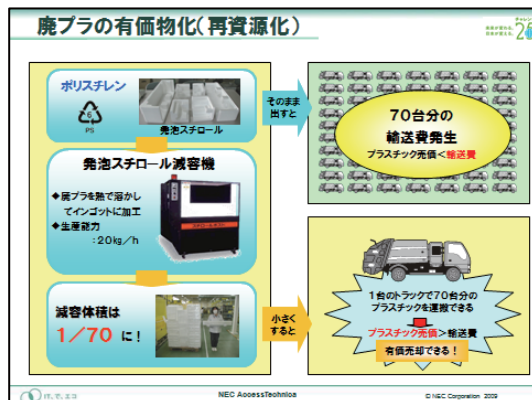


（図—1）

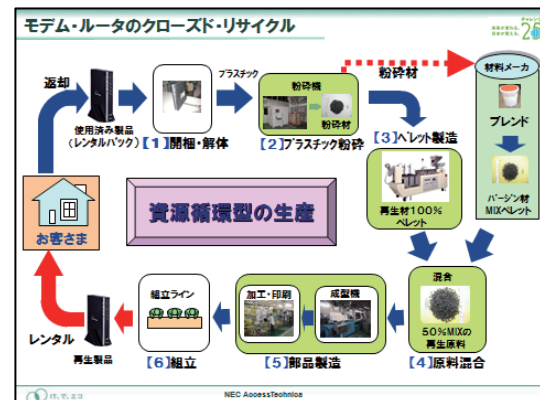
（2）リサイクル作業の内製化

2003年に発泡スチロールの減容機（図—2）を導入し、産廃業者に委託していた中間処理を社内に取り込むことで有価物に替え、処理コストを削減しました。

また、2004年にレンタルモデム製品のプラスチック筐体を同じ製品の筐体に再生するクローズド・リサイクル（図—3）を構築、さらにプラスチック粉砕機を導入して、社内加工することで付加価値を高め、製品リサイクルを積極的に展開しています。



（図—2）



（図—3）

（3）資源循環型生産工場の構築

2010年に広域認定制度の処理施設として環境大臣から認可を頂き、お客様に販売した使用済み製品を全国から回収して適正に処理できるようになりました。これにより全国でも類を見ない「生産から回収、更にクローズド・リサイクルにより再び製品に戻す」資源循環型生産工場が構築（2011/12稼働開始）できました。

2. 環境意識啓発活動

環境意識の高い従業員の育成、さらにそれを地域・社会に広げるため、積極的に活動を展開しています。

(1) 従業員への意識啓発

2004年より掛川市主催の「かけがわ美化推進ボランティア事業」に登録し、昼休みや就業後に工場周辺の「ごみ拾い」(写真—1)を従業員ボランティアで実施し、地域貢献と環境意識向上に努めています。

また、2005年には工場建屋に「緑のカーテン」(図—4)を設置。採取した種は翌年から毎年従業員に配布して自宅での「緑のカーテン」設置を奨励しています。

さらに2006年からは構内の空地を利用して「有機農園」(図—5)を開始。有志12チーム60名が野菜栽培を通じた体験学習をしています。



(写真—1)



(図—4)



(図—5)

(2) 地域貢献

2005年に新エネルギーと資源循環をテーマとした循環型生産工場「エコパーク」が完成し、社外から多くの見学者を受け入れています。また、掛川市と協働で環境学習会を企画し、地域の親子や教師、地域の環境指導者、行政の環境担当者などを対象とした環境学習(図—6)を毎年開催しています。

2007年には社内スキルを活用して手作りのソーラー街路灯(図—7)を製作しました。部品を購入して従業員が自ら塗装や配線・組み立て設置を行い、33基を工場周辺や駐車場周辺に設置しました。この活動が評価され、掛川市から感謝状を頂きました。



(図—6)



(図—7)

所在地 〒436-8501 静岡県掛川市下俣800番地

連絡先 TEL : 0537 (22) 8212

URL <http://www.necat.co.jp/index.html>

代表者：伊藤 博之

設立（事業着手）：昭和 33 年 10 月

活動概要

当社は、昭和 33 年に会社を設立し、潤滑油製造と廃油再生事業に着手しました。昭和 47 年に名古屋市の廃棄物処理業の許可を受けて以来、廃水（廃酸、廃アルカリ）、廃油、汚泥のリサイクルに一貫して取り組み、現在では、全国規模のリサイクルネットワークにより資源循環を推進し、循環型社会形成に向けたさまざまな活動を展開しています。受賞のきっかけとなった主な活動内容を下記に紹介します。

1. 全国規模のリサイクルネットワーク

名古屋、北陸、関西、九州、関東、千葉の国内 6 カ所を事業拠点として産業廃棄物処理と資源リサイクルに全国ネットで対応しています。

2. 資源循環の推進 [活動の様子：(1)資源循環の推進]

リサイクル・産業廃棄物処理業は、静脈産業とも呼ばれます。心臓から動脈を通して体中に送られた血液を、心臓に返す働きを持つ静脈のように、排出企業（メーカー）が製品を製造する過程で発生する廃棄物を当社が燃料や原料として^(※)再資源化してリサイクル製品受入企業に納入し、排出企業・リサイクル事業者（当社）・リサイクル製品受入企業の 3 社がメリットを享受できる仕組みを構築しています。

^(※) 再資源化（多様な技術を組み合わせて可能な限り資源化）

(1) 廃油のリサイクル

劣化した潤滑油を再生したり、水分や混入物を除去・精製して再生重油を製造したり、利用業者の希望に合わせて成分などを調整して補助燃料（石炭代替燃料）に加工しています。

(2) 汚泥のリサイクル

脱水、乾燥混練（薬剤と混合）などの処理をして、セメント原料や補助燃料にリサイクルします。しかし、リサイクルできない汚泥は可能な限り減量し、外部に委託して埋立て処分します。

(3) 廃水（廃酸・廃アルカリ）のリサイクル

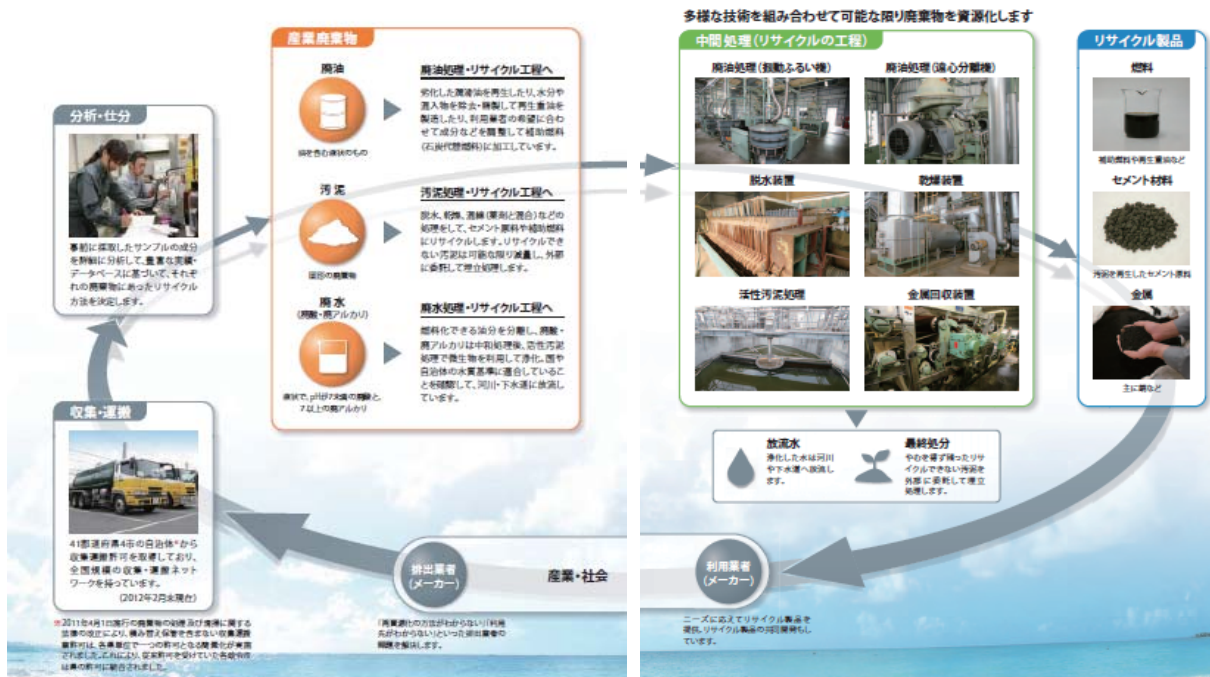
燃料化できる油分を分離し、廃酸・廃アルカリは中和処理後、活性汚泥処理で微生物を利用し浄化して、国や自治体の水質基準に適合していることを確認後、河川・下水道に放流しています。

3. リサイクル率向上の取り組み [活動の様子：(2)リサイクル率の推移]

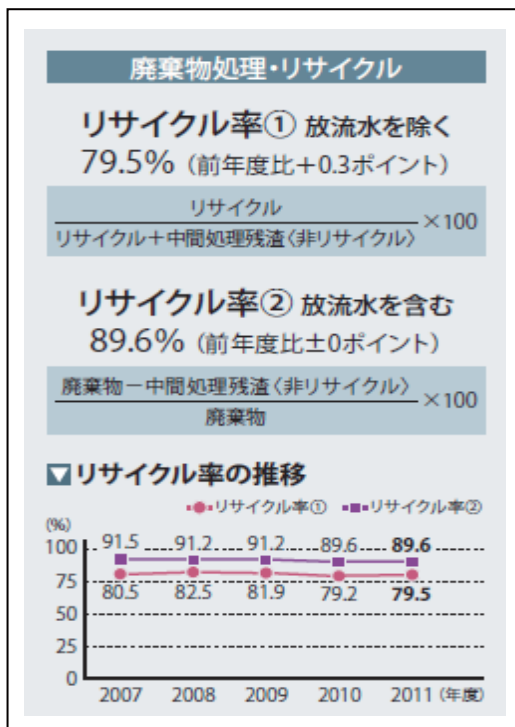
近年では廃水の中から銅やニッケル、レアメタルなどの有用な金属・化学物質を回収、再資源化することが、リサイクル向上の鍵となっています。しかし、廃水の中に溶け込んでいる有用物質の濃度や形態は、排出企業ごとに常に異なり、また地域特性もあります。リサイクルできる物質の数を増やし、リサイクル率を高めていくために、平成 23 年度（2011 年度）より「資源回収プロジェクト」を立ち上げ、全社を挙げて更なるリサイクル率の向上に取り組んでいます。

活動の様子

(1) 資源循環の推進



(2) リサイクル率の推移



リサイクルの考え方

当社では、原材料の投入から製品の廃棄に至るまでの全体を把握してリサイクル率を算出しています。当社へ入荷した廃棄物は、中和処理後、国や自治体が定めた排水基準値を満たして下水道などに放流します。一般的に放流水はリサイクルに含めませんが、当社の中間処理の柱の一つである廃水処理を含めた成果を把握するために、放流水を含めたリサイクル率②を設定しました。

また、平成23年度(2011年度)は廃棄物等(原材料)を868千t受け入れました。詳細は、当社ホームページの「環境・社会報告書2012」14ページをご参照してください。

所在地 〒455-8505 名古屋市港区船見町1番地86

連絡先 TEL: 052-611-6308 e-mail: kankyo@daiseiki.co.jp

URL <http://www.daiseiki.co.jp>

代表者：代表取締役社長 宮原 道夫、工場長 立石 一郎

設立（事業着手）：平成 18（2006）年 5 月 25 日

活動概要

森永乳業神戸工場は 2006 年に稼動を開始した工場でカップ入りコーヒー飲料、ヨーグルト、流動食などを製造しています。建設当初より環境に優しい工場を目指し、廃棄物の発生抑制に取り組んできました。

製造に際しては、工程で発生するコーヒーおよび紅茶の抽出かすをはじめとして、検査サンプルや排水汚泥などさまざまな副産物が発生します。特に当工場で製造するコーヒー飲料は、おいしさへのこだわりからレギュラーコーヒーを贅沢に使った設計となっており、抽出かすが多く発生します。神戸工場の生産開始直後から副産物を有効に活用していくことは大きな課題の一つでしたが、様々な取組を通じてこれらの有効活用を進めてきました。その結果、2008 年度 17,500 t であった廃棄物量が 2011 年度には 2,000 t 以下となりました。今後もこのような取組を進め、さらなる廃棄物量の削減を目指して行きます。

1. バイオマス熱利用設備

バイオマス熱利用設備では生産工程から発生する副産物をエネルギー化します。コーヒーかすは自身の持つ熱量が高いため、自燃できる水分まで乾燥機で水分を調整した後、燃焼させます。飲料、ヨーグルトなどの残渣は水分が多く、そのまま燃焼させても熱量的にはマイナスなため、メタン発酵によって、可燃性のバイオガスを取り出し、燃焼させています。濃厚な食品排液をメタン発酵処理することで排水処理場への負担も下がりました。発生させた熱は排熱ボイラーにより蒸気として、殺菌など生産工程で利用し、都市ガスの使用量削減に役立てています。

2. 排水汚泥の肥料化

排水は排水処理場で清浄化しますが、清浄化の過程で余剰汚泥が発生します。一部はバイオマス熱利用設備にてエネルギーとしますが、残りについては乾燥機で乾燥させ、乾燥菌体肥料として有価で販売しています。

3. 廃プラスチック類の高度利用（有価物化）

検査サンプルなど、工場で処理されるプラスチックカップは、リサイクル業者と共同で検討を進め、一定のサイズに破碎洗浄することでプラスチック原料としてリサイクルできるようにしました。

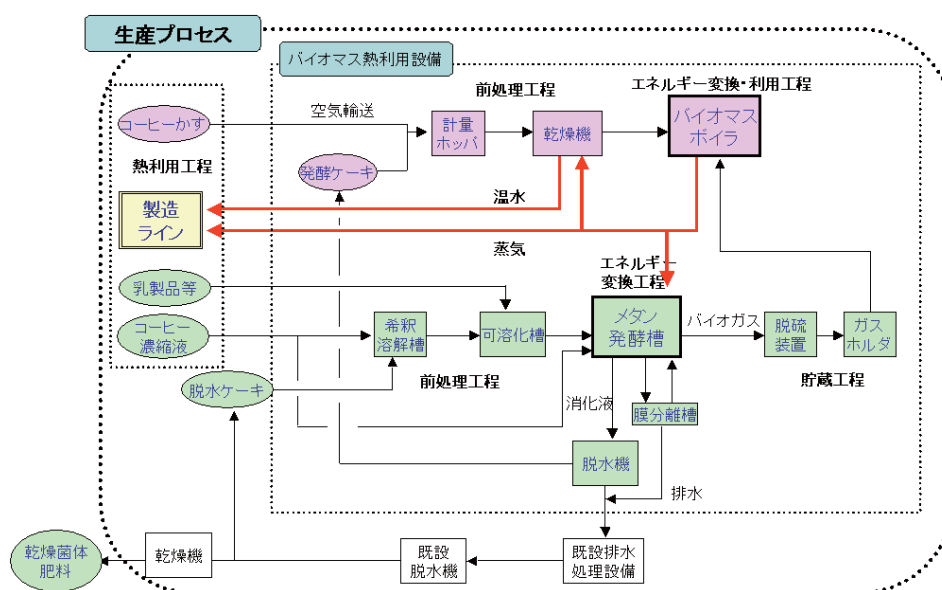
活動の様子



バイオマスボイラー設備



メタン発酵設備



バイオマス熱利用設備全体フロー図



肥料製造用乾燥機



破砕洗浄したプラスチック片

所在地 〒657-0854 神戸市灘区摩耶埠頭3

連絡先 TEL : 03-3798-0960

e-mail : m_endou@morinagamilk.co.jp

U R L <http://www.morinagamilk.co.jp/>

3R活動推進功勞団体

代表者：西村 睦子

設立：平成元年 4 月

活動概要

主婦グループがゴミの減量と資源化を目指して、平成元年「紙パック回収運動を進める会」を発足。回収の広がり行政・市民を大きく動かし平成3年度に旭川市の紙パック分別回収がスタートした。平成7年「循環ネットワーク旭川」に改称。**廃棄物の減量・資源化システム・リサイクルの実践**を軸に行政・事業者・市民団体を繋いで環境コミュニケーションを図っている。

＜主な活動の内容＞

I 平成元年：会の発足にあたり NHK 解説委員（当時）の伊藤和明氏を招いて「いま、地球が危ない」の講演と意見交換会を開催し、紙パック回収運動への弾みをつけた。

平成4年：ゴミの分別収集を目指した「ゴミの分別・資源化フォーラム～市民と事業者・行政の役割」について松田美也子氏に講演いただき、ゴミ分別への関心が高まって平成8年1月に4分別収集でスタートした。その後10分別収集に拡大した。

ii 平成8年～平成13年

①「リサイクル法って何？」のセミナー等6回の学習会 ②再生紙と純パルプのトイレットペーパーの販売実態と価格調査。③環境にやさしいお店探し調査（5団体連携）を行い、結果を新聞や消費生活展などで発表した ④映画「ダイオキシンの夏」自主上映会を10団体連携して行った。（入場者500人）

III 平成14年～平成17年

冬でもできる段ボール箱で生ゴミの堆肥化講習会を町内会などで25回実施。農業試験所で20人分の堆肥の成分分析をした結果を環境展で公表した。成分はミネラル分が多く牛肥に匹敵するが、生ゴミによって格差があることが分かった。



地球環境問題について語る伊藤和明氏



消費生活展で調査報告の様子



生ゴミ堆肥化いろいろ講座
進めよう！旭川の生ゴミリサイクル

Ⅳ 平成18年～平成23年

「お買い物ゲームをしながらゴミ減らし講座」をノーレジ袋運動「がんばれNPO」基金の助成を受け実施。マイバックを作成して市民に配布した。旭川市環境アドバイザー派遣として町内会・公民館・学校・事業所などに講演や「手すき葉書作り」「生ゴミの堆肥化」「廃食油で石けん作り」「環境にやさしいお掃除講座」などを実施。資源の有効活用について普及啓発を行っている。



環境アドバイザー講座の様子

Ⅴ「家にきてくれますか？」子どもからの手紙

・僕は学校で「廃油石けん作り」を経験できてよかったなあ」と思いました。お母さんが近所の人と作ってみたいと言ってます。教えてくださいませんか？（小学校5年生）

・ときにはこんなかわいい依頼がきます。お母さんは地域の方々に声をかけて待っておられた。人の生き方として「子どもや孫の行き先花となれ」になる行動をする共感者が増えていることを実感している。



「できたよ、うれしいです！」
お母さんから送られてきた写真

Ⅵ福祉施設での紙すきボランティア（平成2年～現在）

知的障害者通所施設との出会いは、「紙パック回収運動を進める会」を発足してから、「すぐ私達も取り組みます」とご縁をいただいた。以来22年間紙すきボランティアをしている。これまでに「紙すき親子講習会」「福祉施設紙すき技術レベルアップ講習会」など多数実施。絵手紙用のはがきは遠く九州からも注文がくるほど好評を得ている。



施設での作業の様子



消費生活展での学園生の絵手紙展示

これらの取り組みが評価され平成24年6月に知事感謝状を受賞した。

所在地 〒071-8141 旭川市春光台1条2丁目7-14

連絡先 TEL : 0166-52-9252

e-mail : n-mutuko@potato.ne.jp

U R L

旭川消費者協会

代表者：

設立（事業着手）：平成 15 年 1 月

活動概要

設立（昭和 41.5）以降、「ノートレー」「くらしの見直し」「フリーマーケット」等の取り組みを続けて来ました。

旭川消費者協会が、長年、スーパーマーケット協会に協力を要望してきた「ノーレジ袋・マイバッグ持参運動」は平成 15 年 1 月にこの 2 者で協力し実現しました。

これには旭川市も賛同して全市内をあげての運動となり、この年から平成 22 年まで 7 年間、運動が定着するまで、三者（消費者・事業者・行政）による運動が展開され、総勢 210 人による啓発パレード、街頭及び店頭啓発、シンポジウム等の開催、3R 推進北海道大会（平成 19 年）において先進事例発表等を行い、資源の循環的利用の普及に貢献しました。

平成 22 年からは「容器包装の削減」「バラ売りを買おう」「マイボトル・マイハシの持参」活動を行っています。

活動の様子

平成 16 年

会員はじめ、市議員・市環境部職員・女性団体・スーパー等、約 200 名が毎年 5 月、マイバッグ・仮装・プラカードなど思い思いの格好で楽しくパレードしました。



毎年の消費生活展で買物袋の持参を、パネル・チラシ配布・展示等で呼びかけました。揃いの黄色いジャンパーを製作し着用しました。



平成 19 年

イメージソング“マイバッグのうた”を製作しました。
協会会員による作詞・作曲、市内の小学生に唄って頂き、
市内 50 店舗のスーパーで毎月 5 日の“ノーレジ袋の日”
に店内放送して頂きました。



マイバッグ マイバッグ マイバッグ
(以下くり返す)

- ①お買物は マイバッグ
- ②いつもどこでも マイバッグ
- ③ほくもわたしも マイバッグ
- ④いろんな形の マイバッグ
- ⑤みんな持つてる マイバッグ
- ⑥地球にやさしい マイバッグ

3R 推進北海道での発表や、パネルディスカッション“みせて！おしえて！マイバッグ！”を開催しました。



平成 15 年にリデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰（大臣賞）受賞しました。

所在地 〒070-0031 北海道旭川市一条通八丁目フィール旭川 7F

連絡先 TEL : 0152-45-3308

e-mail : a-shokyo@wave.plala.or.jp

U R L <http://www16.plala.or.jp/asahikawa-shokyo/>

ごみ減量・もったいないねット山形

代表者：金澤 和子

設立：平成 18（2006）年 12 月

活動概要

私たち「ごみ減量・もったいないねット山形」は、山形市のごみ減量と再資源化を進めるため、H18（2006）年 12 月に設立された市民団体です。

活動の広がりとともに、会員数も年々増加を続け、設立時の 62 に対し、現在では、個人・団体・事業者を合わせて 500 を超え、活動は充実期を迎えています。

会では、「もったいない」を合言葉に、5R(※)の推進を活動目標に掲げ、5つの部会に分かれ、会員自らの企画により、事業を実施しています。

これまで、マイバッグの持参運動をはじめとした店頭キャンペーン、学習会等の開催、様々なツールづくりを通した 5R 情報の発信、広報活動、さらに、地域や学校におけるごみ減量運動の促進を目的としたアドバイザー派遣等、確実な足跡を残してまいりました。

※5Rーリデュース・リユース・リサイクルの 3R に、リフューズ（レジ袋や過剰包装を断る等）、リペア（物を大事に修理し、長く使う等）を加えた 5 つの R。

活動の様子

・ 5 部会の概要

I 買い物エコフレンド部会ーレジ袋削減や店頭回収拡大等、買い物に関するごみ減量運動。

II 5R 情報発信部会ー会員事業者が取組む 5R 情報の発信及び会員拡大。

III ごみ減量学習事業ー様々な学習会を通し、家庭・地域等にごみ減量の輪を拡大。

IV 広報事業ーホームページや情報誌、ごみ減量かるた等の広報ツールづくり。

V ごみ減量アドバイザー部会ー地域や学校等へのごみ減量アドバイザーの派遣。

【会全体事業】

①レジ袋削減に向けた取組み



H20 年「レジ袋削減に向けた取組みに関する協定」締結式

市民・事業者・行政が連携し、マイバッグ持参運動を設立当初から実施し、H20 年 7 月からの食品系大型スーパーでの「レジ袋無料配布の一斉中止」の際は、中心的な存在として、協定に参加しました。

また、マイバッグコンテストやマイバッグ持参ありがとうキャンペーン、風呂敷活用ワークショップ等を通し、マイバッグの持参を消費者に呼びかけ、レジ袋無料配布中止後のマイバッグ持参率は、常に 90 %

を超える高水準を維持しています。更に、レジ袋無料配布中止の取組みは、異業種にも拡大し、全国初の事例となった百貨店、また、ホームセンターの一部にも拡大しています。

②ごみ減量かるた作製の取組み

年少者に対するごみ減量を広めるため、社会貢献団体や他市民団体、さらに会員企業との連携により、本会キャラクターごみ減量すむくん・かなえちゃんを活用したオリジナルかるたをH21年から作製し、子育て施設や特別支援学級、さらに、デイサービスセンター等へ配布しています。

毎年2月には、ライオンズカップかるた大会が開催され、例年、30チーム100名を超える大勢の子どもたちや家族連れが参加し、熱戦を繰り広げ、世代を超えたごみ減量運動の輪が着実に広がっています。



H21年「ごみ減量かるた」贈呈式、
かるたあそびの様子

③ごみ減量アドバイザーの派遣



H23年「ごみ減量アドバイザー」登録証交付式の様子

派遣実績も年々増加し、H23年度は、地域の学習会や夏休み親子学習会、留学生への日本文化教育、さらには、公民館環境講座等に計14回を数え、延べ555名の学習者に参加いただき、きめ細やかなごみの減らし方、リサイクルの進め方等をお伝えしています。

その他

- ☆ごみ減量標語募集（H19年） ごみ減量キャラクター募集（H20年）
- ☆布、紙の資源化促進に向けた取組みに関する協定締結（H20年）
- ☆ごみゼロ推進県民会議「ごみ減量功労者表彰」受賞（H21年）

本会会員の中からごみ減量のエキスパートであるごみ減量アドバイザーを地域や学校に出前講座として派遣しています。

メニューは、エコクッキングや生活全般の節約術、古布リメイク、エコいけばな、リサイクル工作づくり、エコ文具の歴史等、多岐にわたり、現在18名のアドバイザーに登録いただいております。



H24年アドバイザー派遣「リサイクル工作」の様子

所在地 〒990-8540 山形県山形市旅籠町二丁目3番25号 事務局（山形市環境部ごみ減量推進課内）

連絡先 TEL：023-641-1212（内線698） e-mail：gomigen@city.yamagata-yamagata.lg.jp

URL <http://www.mottainai-yamagata.net/>

大平町ごみを考える会

代表者：会長 藤原 美恵子

設立：平成 14 年 9 月

活動概要

1. 大平町ごみを考える会の概略

平成 14 年 9 月に、市の女性団体、販売店、商工会の代表者及び一般公募者を含む 21 名の会員からなる「大平町レジ袋を考える会」が発足しました。ごみの減量化のひとつとしてのレジ袋の削減を進めることを柱とする団体として、平成 15 年 9 月よりレジ袋削減のためさまざまな活動を開始し、市内小中学校、市内小売店等を巻き込んで活動領域を広げています。

2. 活動の概略

当初の活動内容は市内の販売店でレジカウンターの前にポスターなどを貼ったり、店頭で『マイバッグ持参』の“のぼり旗”を立てたり、小売店において、ティッシュ配布をしたり店内放送等で呼びかけたりすることでした。

この運動は、大型店舗、コンビニエンスストアを始め、商工会加盟約 100 店舗の協力を得て、毎月「5 日」「15 日」「25 日」の「5」の付く日を『マイバッグ持参デー』としていました。

(ア) マイバッグキャンペーン

平成 16 年 10 月から活動内容をさらに充実したものにするため、研修や打ち合わせを頻繁に実施し、さらに会の名称を「大平町ごみを考える会」に変更しました。

平成 17 年 3 月から 1 か月間マイバッグキャンペーン「スタンプ制」を試行することが決まりました。スタンプ制とは小売店がスタンプ押印欄が 5 つあるカードをお客さんに配布し、レジ袋を断った際にカードにスタンプを押すものです。押印済みスタンプ 5 個のカード 1 枚と指定ゴミ袋 10 枚セットを交換できる特典をつけました。

平成 18、19 年には実施時期を 9 月～10 月の 2 ヶ月間としたり、スタンプの数を 10 個に増やしたりしました。このころから 5 のつく日でなく「毎日」を「マイバッグ持参デー」としました。

平成 20 年には実施時期を 10 月の 1 週間とし、スタンプ制をやめて毎年実施される「産業祭」の抽選会の抽選券を配布する形式に変えて現在に至っています。毎年市内 50 以上の小売店の参加協力を得て、市内に徐々に浸透しています。

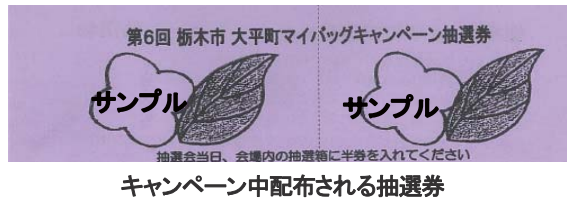
(イ) その他の活動

環境保全に関するポスターコンテストを行政と共催しています。市内の小中学生に描いてもらったポスターを募集します。応募作品の中で優秀な作品は表彰するほか、作品を 10 月の 3 R 月間の期間中に市の図書館や市内小売店に展示したりしています。

また、地域の公民館等で環境に関する出前講座の講師もしばしば行っています。講座を通して強く訴えている点はごみの分別を徹底し、資源物を多く、ごみを少なくしようということです。レジ袋削減以外にもごみの減量につながるものを模索し、小売店、子どもたちを含めた地域住民とともに多くの人に対し、3 R の普及啓発活動を実施、サポートしています。

活動の様子

(ア) マイバッグキャンペーン



産業祭には毎年抽選券を握りしめた約4000名が来場します。

8回のキャンペーンで13万枚以上のレジ袋削減！

実施年度	実施期間	レジ袋削減枚数	参加店数	形式
平成 17 年	1 ヶ月 3/1～3/31	17, 575	87	スタンプカード
平成 18 年	2 ヶ月 9/1～10/31	31, 300	63	スタンプカード
平成 19 年	2 ヶ月 9/1～10/31	36, 660	58	スタンプカード
平成 20 年	8 日間 10/19～10/26	9, 489	57	抽選券
平成 21 年	8 日間 10/18～10/25	9, 514	54	抽選券
平成 22 年	8 日間 10/17～10/24	8, 978	52	抽選券
平成 23 年	8 日間 10/16～10/23	11, 314	54	抽選券
平成 24 年	8 日間 10/14～10/21	9, 943	54	抽選券
合計		134, 773	のべ 425	

(イ) その他の活動



図書館に展示された作品



表彰式

所在地 栃木県栃木市大平町富田 558 栃木市役所大平総合支所内

連絡先 TEL : 282-43-9211

e-mail : o-shimin05@city.tochigi.lg.jp

U R L

JB 環境ネットワーク会

代表者：事務局 株式会社ジャパンビバレッジエコロジー 代表取締役社長 田代 徹夫

設立（事業着手）：1999 年

活動概要

JB 環境ネットワーク会は、企業の垣根を越えて大手飲料事業者 18 社が連携し活動する任意団体でございます。

私たち飲料事業者は、飲料を通じて日々皆様へ潤いと喜びをお届けしております。また、それと同時に事業活動から発生する環境面での問題についてもきちんとした取組みを行っております。しかし、その中の一つである飲料空容器のリサイクルについてはリサイクル企業への処理委託しか選択肢がなく、リサイクルの実態を把握することが非常に困難でありました。そこで、飲料事業者が企業の垣根を越え連携し、飲料空容器の資源循環の推進に向け取組みを開始したのが、「JB 環境ネットワーク会」でございます。

当会は、1999 年に資源循環の推進に向け取組みを開始し、2003 年 5 月に資源循環の推進の中核施設として飲料空容器再資源化工場「リサイクル・プラザ JB」（埼玉県さいたま市）を設立し、飲料空容器の再資源化に自ら着手いたしました。現在の年間処理量は 8,934 トンを入荷、7,733 トンの再資源化を行っております。2003 年の竣工時からの累計処理量は 62,681 トンとなり、容器包装リサイクルの成果をあげております。



飲料空容器再資源化工場 リサイクル・プラザ JB

更には、全国での飲料空容器のリサイクルを行うため、約 180 社のリサイクル企業、適正処理業者等で「JB リサイクルネットワーク」を構成し、各地域の企業と連携しながら全国規模での資源循環を行っております。

当会のこのような取組みは、業界団体等の力を借りずに一民間企業の呼びかけで始まった、他に類を見ない会であると高い評価を得ております。

工場の運営とあわせて、環境普及啓発活動にも積極的に取り組んでおります。工場内に環境学習室を設置し、いつでも誰でも工場見学ができる体制をとっております。

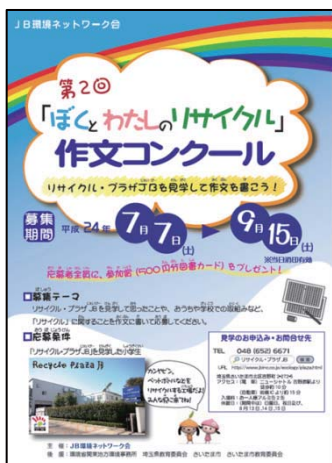
また、リサイクルをテーマにした作文コンクールの開催や、小中学校への「環境出前授業」の実施も行っております。どの場面でも、皆様に資源循環の現状と当会の取組みを知っていただき、資源の大切さと分別の必要性等をご理解いただけるようお話ししております。



リサイクル・プラザ JB 工場見学



小学校出前授業



作文コンクールの開催



作文コンクール表彰式

更に情報提供の場として、毎年「シンポジウム」を開催しており、環境に関する情報発信を行っております。シンポジウムには、行政、有識者および環境保全活動に取り組む皆様にご参加いただき、活動を発表する場の提供や活動支援も行っております。



2012 年1月開催 沖縄シンポジウムの様子



所在地 〒331-0811 埼玉県さいたま市北区吉野町 2-272-5

連絡先 TEL : 048-651-1166 FAX : 048-651-6611

U R L

設立：昭和53（1978）年4月1日創校

活動概要

射水市立中太閤山小学校では、創校以来34年間の長きに亘り、家庭や地域社会と相互に連携して、リサイクル活動や環境保全に関する活動に継続して取り組んでおり、子どもたちはこれらの活動における体験を通して、資源や環境を大切にする心や、「生きる力」の核となる豊かな人間性を育んでいます。

① PTA 資源回収の手伝い及びアルミ缶回収

年4回のPTA 資源回収では、3年生以上の子どもたちが回収の手伝いに参加する取組を創校時より続けています。各家庭から出された資源（新聞紙や本、段ボール、アルミ缶、古布等）を地域の集積所に集めたり、学校に集まったアルミ缶をつぶして大きな袋にまとめたりしています。また、平成8年度からは、ボランティア委員会が中心となり、アルミ缶回収を全校に呼びかけています。回収ボックスを児童玄関前に設置し、定期的に空き缶をつぶして資源回収に出しています。

子どもたちは、回収された資源の量の多さに驚き、環境問題に関心を寄せ、資源を大切にする心やそれらを活用していく心を培っています。



＜アルミ缶を潰す子どもたちと
潰れた缶を集める保護者＞



＜アルミ缶を持って登校する児童と
それを潰すボランティア委員＞

② ベルマーク収集及びリサイクル活動

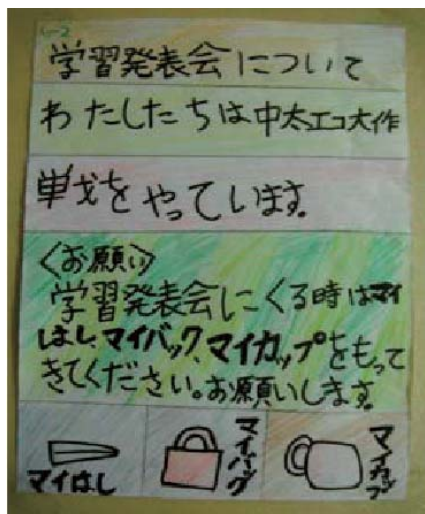
平成16年度より、PTA との連携事業として、ベルマークの収集及び古切手やペットボトルキャップの回収を行っています。ベルマークは学校備品の充実に、古切手やペットボトルキャップは海外への衣料援助やワクチン接種に役立っています。ベルマークや古切手、ペットボトルキャップは、子どもたちが各家庭で集め、登校時に児童玄関前に設置された回収箱に入れます。

これらが貯まると、PTA が回収業者や福祉施設に送ります。これらの活動を通して、子どもたちは共に支え合っていくことの大切さや小さな資源も生かしていく精神を養っています。



＜玄関前に設置された各種回収箱＞

③ 総合的な学習の時間でのエコ活動



＜マイ箸、マイバック、
マイバックの呼びかけポスター＞

平成18年度より、4年生が総合的な学習の時間に「環境チャレンジ10」に取り組んでいます。ごみの分別や再利用についてクラスで勉強し、「ごみチェック」や、ごみを再利用した工作や紙パックを原料とする紙すき体験を行う「ごみ減量作戦」等を実践しています。家族や他の学年の子どもたちを巻き込み、循環型社会とごみの減量化に向けた活動に積極的に取り組んでいます。また、学習発表会では、PTAと子どもたちが連携し、マイ箸、マイバック、マイカップの呼びかけをポスター掲示やプログラムへの記載を通して行ったり、当日にはごみの分別を徹底したりしています。家庭や地域社会と相互に連携して、環境保全に関する活動に継続して取り組むことにより、地球温暖化防止への意識を高めています。

④ 朝の10分間ボランティア活動

平成21年度より、校内ボランティア活動として、毎週木曜日の朝に「10分間ボランティア活動」を行っています。学校生活を気持ちよく送るために一人一人ができることを見付け、校舎内外のごみ拾いや清掃、除草、溝掃除、花壇の世話等に取り組んでいます。これらの美化活動への取組は地域にも認められ、花苗の提供や植え付け作業の協力も得ています。

この活動を通して、子どもたちは「ごみ0」や「地球温暖化防止」に向けての日頃の自分たちの生活を見直すだけでなく、「地域の学校」という意識も育んでいます。



＜冬になる前に溝掃除。
溝に溜まった土砂は、農園に還元＞



＜大好きな円形広場での
ごみ拾いや除草＞



＜地域の方との花の苗植え＞

これらの家庭や地域ぐるみの長年に亘る活動を通して、子どもたちの環境に対する意識は高まり、家庭や地域ぐるみでの活動は、更には近隣住民の取組へとその輪が広がってきています。

また、これらの取組が評価され、平成16年度には、富山県ごみゼロ推進県民会議会長表彰、平成20年には富山県知事表彰（環境部門功労）を受賞しました。

所在地 〒939-0363 富山県射水市中太閤山11丁目3番地

連絡先 TEL : 0766-56-3333

e-mail : nakataikoyama-es@tym.ed.jp

U R L <http://www.nakataikoyama-e.imizu.ed.jp>

特定非営利法人 いきいき

代表者：理事長 星野 清一

設立：平成 13 年 4 月 穴水町手をつなぐ育成会

平成 19 年 4 月 特定非営利活動法人「いきいき」設立

地域で生活する障害者に対しての自立支援と社会福祉に関する事業を行い、障害者が安心して暮らせる地域社会の実現に寄与することを目的とする。

活動概要

私たち特定非営利活動法人「いきいき」は、穴水町で平成 2 年から始まった牛乳パックのリサイクル活動を「パック連穴水」から引き継ぎ、平成 13 年から月に一度の割合で町内の各ストックヤードから回収を続けてきました。

また年二回、それらを製紙会社へと出荷する作業も続けてきました。その合計量は昨年までの 10 年間で 52.3 トンにもなりました。人口一万人足らずの穴水町のリサイクル量としてはかなり大きなものです。

もともと穴水町では中学校生徒会による環境教育の一環として牛乳パックのリサイクルに取り組んでいましたが、当時から REDUSE の考え方を重視して、紙パックの牛乳を瓶に戻しました。それは現在も町内の小中学校で続いています。

「いきいき」では地域と密着して循環型社会形成のための活動をしてきました。古布や着物のリサイクルも、もう一つの大きな活動の柱です。

ウエスとして企業に使ってもらったり、裂き織りにしてバックや小物を作るリサイクルをしています。また、裂き織り体験のワークショップも開催し、地域に『もったいない』をアピールをしています。

のと鉄道の駅には、能登地域の各作業所で作られた製品や、フェアトレード製品を扱うお店を持っています。そこでは日常的に不要品のガレージセールも行っています。

このような「いきいき」の数々のエコ活動は、地域に大きく貢献しています。

平成 19 年 三笠宮杯ゴールドウィンゴルフ大会より百万円の寄付を受ける

平成 20 年 石川県より循環型社会形成の功績に対し表彰を受ける

活動の様子



所在地 〒927-0026 石川県鳳珠郡穴水町字大町口の 80 番地

連絡先 TEL : 0768-52-4377

U R L

代表者：理事長 角喜 美江

設立：平成 11 年 4 月 1 日

活動概要

社会福祉法人遊歩が運営する事業所数種のうち、中心になる吾亦紅は、障がいがある人の働く場、或いは働く友と共に過ごす場です。支援付き自立をめざして毎日元気良く通所します。

1. 仲間（障害がある人）が主人公 2. 地域の中で 3. 障害の程度に拘らない の理念を実現するため、牛乳パックの回収、一部をはがきや名刺に再生する紙すきのしごとは、1989 年の小規模作業所開所時より行っており 23 年目です。また廃天ぷら油を回収、BDF に再生する仕事は、2007 年から始めて 5 年目です。障がいがある人が、地域の中で働き、社会参加し、共生社会をめざします。牛乳パック、廃天ぷら油の回収その再利用で循環型社会の推進に貢献しています。

先の鳥取県知事表彰そして今回の環境大臣表彰は、吾亦紅利用者をはじめ障がいがある人みんなの誇りです。これからの何よりの励みです。

活動の様子

1 2007 年 12 月 14 日 ～米子市立箕蚊屋小学校に、廃天ぷら油の回収に～

生徒さんが、家からペットボトル等を集めた廃天ぷら油を、定期的に頂きに障がいがある仲間と職員が伺う。小学生が感想を書いた寄せ書きも、この日頂き、うれしいひとこま。



2 2008年8月6日 ～米子市委託「淀江清掃社」の清掃車が初めてBDFで～

この日の出発式を、一番真剣な様子で見守っている障がいがある仲間（ピンクTシャツの人）。他の清掃車にも使ってもらっている。毎日天ぷらのおいを米子の街に漂わせています。

仲間の夢は、米子市巡回バス「だんだんバス」にBDFで走ってもらいたいこと。さらにもっともっと生産量を上げなければならないというハードルが待っています。



3 2010年6月9日 ～迎接院「寺子屋」（地域の高齢者活動）に出張紙すき教室～

牛乳パックの回収・再利用と障がいがある人と地域の人との交流で、障がい者理解を深めることを目的に紙すき道具一式を車に詰めて、仲間と職員で〈出張紙すき教室〉に出かけている。

仲間が毎日仕事として行っている紙すき（はがき、名刺等）は、とても自信のあることでこの時は、仲間が“先生”です。老人施設、公民館、小・中学校、福祉専門学校等あらゆる所に神出鬼没。



所在地 〒683-0854 鳥取県米子市彦名町 2850-1

連絡先 TEL : 0859-24-2053

e-mail : waremoko@crest.ocn.ne.jp

U R L

代表者：校長 野口 昌範

設立：

活動概要

循環型社会推進に向けた児童会活動(環境エコ委員会)と PTA 活動

本校では、循環型社会の重要性を体験的な活動を通して児童に理解させるよう努めてきました。児童会活動としては、環境エコ委員会を中心に牛乳パックやペットボトルなどのリサイクル活動や資源の再利用活動、給食の残飯を利用して堆肥を作り、学校園で利用する取り組みなどを行ってきました。それらの成果を環境エコ集会で全校児童に発表したり、体験的な活動を通して学習したりする場を設け循環型社会の必要性について意識づけることができました。PTA 活動として行っている新聞紙や空き瓶の回収活動などに児童も積極的に参加することで地域社会の実態に触れ、学校での活動にフィードバックさせているところです。

① 給食の残飯を利用した堆肥づくり

資源の節約(リデュース)を推進する取り組みとして、隣接する学校給食センターと連携を図りながら給食の残飯を堆肥にする活動を行っています。できあがった堆肥は学校花壇の美化活動や生活科・理科の学習でサツマイモやへちまなどの植物を栽培する際に利用しています。



堆肥(給食の残飯)を使い地域の方といもの苗植え



堆肥(給食の残飯)を使った花の苗植え

② EM 菌の利用(プール掃除に使用する水の減量のため)

米のとぎ汁を各家庭から持ち寄り、EM 菌と混ぜ増殖培養した液をプールに投入する活動を行いました。これにより、プールの汚れが落ちやすくなるため、次年度のプール掃除に使用する水の量が大幅に減らせます。実際にプール掃除を行った 5・6 年生はその違いに驚いていました。



米の研ぎ汁



EM菌の培養液をプールへ投入

③ 環境エコ集会(児童会活動)の実施

環境エコ委員会が中心となり、毎年、環境エコ集会を実施しています。委員会活動の中で取り組んできたことや調べてきたことなどを全校児童に発表しています。調査したことの発表だけでなく、エコクイズや牛乳パックでの再生紙づくり、エコたわし作り、廃材を利用したおもちゃ作りなどを行い参加者が体験的に学習できるように工夫し、低学年の児童も楽しめるようにしました。



環境エコ集体会験コーナー(牛乳パックで再生紙づくり)



環境エコ集会(エコクイズ)

④ PTA 活動(地域活動部の取り組み)

PTA リサイクル活動にも児童は積極的に参加し、古新聞や空き瓶の回収を行っています。親子で汗を流しながら資源の再利用について体験的に学ぶことができます。

また、このような姿を地域の方にも見ていただくことで地域のリサイクルへの意識も変わってきました。町全体が循環型社会の重要性を認識し、移行していこうという気運を高めることにもつながっています。



PTAによるリサイクル活動

⑤ 環境エコ委員会の常時活動

委員会のメンバーが休憩時間、毎日交代で節水、節電を各クラスに呼びかけています。そのため、子どもたちの間では、必要のない電気を節約することは、当然のこととして浸透しており、委員会の呼びかけがなくても自主的に水道の蛇口を点検したり、不要な電気を節約したりできるようになりました。

また、家庭内での節電・節水意識にも高まりが見られるようになりました。

これらの取り組みが評価され、平成 24 (2012) 年 3 月には鳥取県知事表彰を受賞しました。

所在地 〒689-4133 鳥取県西伯郡伯耆町吉長 78-2 伯耆町立岸本小学校

連絡先 TEL : 0859-68-2019 FAX : 0859-39-8023 e-mail : kisimoto-e@mailk.torikyo.ed.jp

U R L <http://cmsweb1.torikyo.ed.jp/kisimoto-e/>

特定非営利活動法人 エコネットワーク津山

代表者：理事長 神田 寿則

設立：平成15（2003）年5月

活動概要

平成13年から2年間、津山市が環境基本計画を策定するにあたり、市民の公募により結成された「環境市民委員会」が市民提案による原案を作成しました。この「環境市民委員会」と、津山市のごみ減量化を目指して平成12年に結成されていた市民団体「エコネット津山」が一緒になり、「津山市環境基本計画」を推進する団体「エコネットワーク津山」が結成されました。その後、より環境問題に対する活動を広げ、津山市をはじめとした地方自治体が展開する環境施策との協働を進めていくために、新に「特定非営利活動法人エコネットワーク津山」として法人格を取得し、更なる発展を目指し活動を行っています。

① 3R活動の推進

特定非営利活動法人エコネットワーク津山は、平成12年6月からごみ減量を目的とした公設民営のリユースプラザ津山「くるくる」を運営し、3R活動を推進しています。「くるくる」では家庭で不要になった家具、電化製品、衣類、本、陶磁器などを引き取り、必要な市民に提供してゴミの減量に努めるだけでなく、津山市のごみの現状や、生ゴミの処理、環境やリサイクルに関する展示、移動「くるくる」による他地区での3R活動の啓発を行っています。また各スーパー等でばらばらなレジ袋減量のポイントカードを共通化した「つやまエコシステム」の事務局としてマイバック運動を推進し、さらに小学校、地域の子ども会、老人会等への環境啓発出前授業も実施しています。



② 親子エコフェスタの開催

毎年、環境月間の6月に岡山県・津山市などの主催で、環境問題やエコに関する情報発信や環境団体相互の交流、シャッター通り化したまちなか商店街の活性化を目的として開催される「親子エコフェスタ」において事務局を担当し、その企画運営に携わってきました。このイベントは平成17年より8回目を数え、出展団体は年々増加し平成24年は56団体になりました。



③ その他の環境啓発活動

地球温暖化防止に対する活動や身近な自然を守り、愛する気持ちを育てる「水の学校」、「森の学校」、「山の学校」などを実施し、子どもや大人に対する環境教育を行っています。



平成17年度に循環型社会形成推進部門（団体の部）で「環境おかやま大賞」を受賞しました。

所在地 〒708-0004 岡山県津山市山北805番地

連絡先 TEL : 0868-22-7656

e-mail : econet@mx1.tvt.ne.jp

URL <http://www3.tvt.ne.jp/~econet/>

3R活動推進功勞個人

所属：群馬県再生資源事業協同組合連合会

活動概要

県の環境政策課が主管する「ぐんま環境&森林フェスティバル」に参加し、環境問題やリサイクルの重要性を県民にアピールする。

活動内容

平成 11 年より毎年参加しており、今年で 14 回目になる。フェスティバルでは古本市や日用品のバザー等も行い、その収益金は環境政策課を通し福祉団体や「群馬ハンセン病訴訟を支援しともに生きる会」に寄付している。

【群資連傘下の各単協の活動】

- ・ 前橋市再生資源事業協同組合
環境美化運動として、畜産試験場周辺に於て通行する人にごみ袋や、環境問題をピーアールするティッシュペーパーを配付する。
前橋リサイクル祭りに参加し、古本市や日用品バザーを行い、その収益金を市の環境部を通して福祉関係に寄付している。
- ・ 高崎リサイクル事業協同組合
環境美化運動として、観音山周辺に於て、清掃活動を行う。
- ・ 太田再生資源事業協同組合
太田環境フェスティバルに参加し、廃タイヤ・廃バッテリー等の回収をする。
- ・ 桐生資源事業協同組合
環境美化運動として、清掃センター周辺に於て、清掃活動を行う。
- ・ 北群馬再生資源事業加工協同組合
渋川市環境祭に参加し、廃タイヤ・廃バッテリー等の回収をする。
- ・ 館林広域再生資源事業協同組合
市民の集いに参加し、古紙の回収や古本市を開く。

活動の様子



ぐんま環境&森林フェスティバルの開会式



フェスティバルに於ける群資連のブース



トイレットペーパーの積み上げ
親子で楽しめる。



空き缶吊り
先端に磁石が付いており、
スチール缶を吊り上げる。
アルミ缶との違いを覚えてもらう。

所在地

連絡先

U R L

河合 優

所属：

活動概要

永年、自ら環境美化に尽力するとともに地域の人材を掌握指導する中で、環境美化を積極的に推進している。

昭和 62 年 4 月～ 三島市大社町衛生部長（平成 16 年 3 月末日まで）

平成元年 4 月～ 三島市選出環境衛生自治推進協議会会員（平成 6 年 3 月末日まで）

平成 6 年 4 月～ 大社町選出三島市環境美化推進員（現在も継続中）

平成 16 年 4 月 大社町 5 区区長（平成 18 年 3 月まで）

活動の様子

ごみの分別指導や啓発に尽力、特にミックス古紙の分別回収については、平成 17 年から試行モデル地区として、紙ごみの分別回収を率先して実施し、翌年度の市内全域への拡大に当たっては、東部地区の理事としてリーダーシップを発揮し各集積所での啓蒙活動に励み、ミックス古紙分別回収・啓発看板・チラシ等の作成・各町内への説明会等の啓蒙活動に努め現在も集積所の環境美化管理を率先して行っています。

所在地 〒411-0853 静岡県三島市大社町 16-13

連絡先 TEL：055-975-6015

U R L

所属：筑後市環境衛生協議会 会長

設立：昭和 35 年 頃

活動概要

- ・ 私たち筑後市環境衛生協議会は昭和 3 5 年頃に設立し、現在は市内各地域の巡視員（総数 110 名）で組織しています。地域での分別収集指導、ごみの減量化、不法投棄防止活動、環境美化運動などの活動を行っています。
- ・ 昨今の環境問題は、地球温暖化、大雨や干ばつなどの自然災害をはじめとした地球規模での様々な問題があります。廃棄物を取り巻く環境としても、大量生産・大量消費・大量廃棄が当然のこととして行われてきていましたが、現在では地球温暖化や資源の枯渇への懸念もあり、省エネルギー・資源の有効活用・廃棄物の再資源化が日本だけではなく世界的な課題となっています。

【ごみ減量化推進運動】

- ・ このような中、筑後市でも様々なごみ減量化の取り組みがなされています。
- ・ 平成 8 年から缶・びんの分別収集が開始されました。そして平成 1 2 年には新しい施設（クリーンセンター、リサイクルプラザ）の稼働とともに缶、びん、ペットボトルなど、現在の基礎となっている分別収集が始まりました。
- ・ また、生ごみ処理容器購入への助成制度の拡充を行ったりと、ごみ減量化へ様々な施策が行われ、環境衛生協議会もごみ減量化の啓発や、生ごみ処理容器の斡旋・販売など、市と連携して事業活動を展開しています。
- ・ 平成 2 4 年度から廃プラスチックの分別収集が開始されるのに合わせ、市民への指導啓発が充分にできるよう、環境衛生協議会では先行して廃プラスチック再資源化工場を視察したり、研修会（勉強会）を行ったりしました。
- ・ そして本年 4 月から本格的に廃プラスチックの分別収集が始まり、市と連携し、廃プラスチックの適正な排出に向け指導・啓発を強化しているところです。

【環境美化運動】

- ・ 不法投棄、ポイ捨てのない住みやすい街をめざして毎年秋に市内一斉パトロールを行っています。本年は新たな取り組みとして市内の 3 駅に分かれて不法投棄防止啓発活動を行いました。



不法投棄防止啓発活動の様子

- 平成22年には、第18回「環境自治体会議ちっご会議」が筑後市と大川市、大木町との共催で行われました。その際には環境衛生協議会でも積極的に参加し、全国から集められた環境先進自治体関係者と交流を深め、意見交換を行いました。



平成21年環境自治体会議ちっご会議への参加

【レジ袋削減・買い物袋持参運動】

- ごみ減量化推進運動の一環として、スーパーなどでの不要なレジ袋を貰わない運動として、同協議会では市内でのイベントで市民の方へ買い物袋を配布し、合わせてごみ減量へのご協力をお願いしながら「マイバッグ持参運動」も推進しています。
- 私は平成11年から筑後市環境衛生協議会会長をさせていただいています。
- また平成20年度からは福岡県地区衛生連合会副理事長をさせていただき、上部団体との連携をとりながら活動しているところです。
- 循環型社会形成推進のため、地域の環境美化活動や、ごみ減量化啓発活動、不法投棄防止啓発活動など、様々な運動も団体の先頭に立ち、今後も市内の巡視員さん達とともに活動していきたいと思っています。

所在地 〒833-8615 福岡県筑後市大字山ノ井 898

連絡先 TEL : 0942-53-4120

e-mail : kankyou@city.chikugo.lg.jp

U R L

所属：株式会社筑紫環境保全センター 取締役副社長

設立：昭和 60 年 7 月

活動概要

公益社団法人福岡県産業廃棄物協会役員として、会員の資質の向上、業界内外の啓発活動及び廃棄物の適正処理に関する講習会、研修会の企画運営、講師を務める等、循環型社会形成の構築に向けた種々の活動を通し、3R推進活動に熱意を持って積極的に実践する。

平成 17 年～現在 公益社団法人福岡県産業廃棄物協会 理事
平成 20 年～現在 環境省環境カウンセラー
平成 22 年～現在 日本産業廃棄物処理振興センター委託講師
平成 23 年～現在 一般社団法人廃棄物処理施設技術管理協会 理事

【主な活動】

○ゼロエミッション推進事業者知事表彰受賞するなど、常に創意工夫を凝らしながら廃棄物の発生抑制、最小限に抑える取組みを通して、3R活動推進を図る。

○環境カウンセラーに登録し、環境に配慮した環境経営を広く企画提案を行い、より良い環境づくりに努める。

○クリーンキャンペーン・不法投棄撲滅キャンペーン及び環境フェスティバルなどにより、広く一般消費者に啓発活動に努める。

・オリジナルエコバックの作成・配布

行政主催の環境フェスティバルに出展し、参加者がオリジナルのエコバックを作成するという企画を実施。参加者自らがエコバックへのペイントを行ったり、そのエコバックを利用することを通じて、地球環境や3Rについて考えるキッカケ作りの場を提供。

・エコバックの配布

ショッピングセンターの街頭でエコバックを配布することで、“買い物”という身近な行為から、地球環境や3Rについて考えてもらう活動を実施。

・3R啓発ティッシュの配布

ショッピングセンターの街頭で、3Rの啓発普及に関するティッシュを配布し、地球環境や3Rについて考えてもらう活動実施。

活動の様子



○オリジナルエコバックの作成・配布



○O3R開発ティッシュの配布



○公益社団法人産業廃棄物協会 会報誌「Sustaina Style」循環型社会形成広報



○ゼロエミッション推進事業者表彰



○エコ事業所優秀賞

所在地 〒818-0066 福岡県筑紫野市永岡 1272-14

連絡先 TEL:092-922-1716 e-mail: kawazoe@chikukan.net

U R L [http:// www.chikukan.net/](http://www.chikukan.net/)

参 考 資 料

資料 1 循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰実施要領（抄）

資料 2 平成19～23 年度循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰者功績一覧

資料1 循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰実施要領（抄）

（平成18 年7 月7 日環廃対発第060707002 号環境大臣通知による実施要領より）

循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰実施要領（抄）

I 目的

本制度は、総物質投入量・資源採取量・廃棄物等発生量・エネルギー消費量の抑制（リデュース）、再使用（リユース）、再生利用（リサイクル）、熱回収（エネルギーリカバリー）の適切な推進、廃棄物の収集運搬・処分事業、浄化槽の設置・保守点検・清掃及び製造等の事業、ねずみ・衛生害虫等の防除及び清掃等による生活環境の改善、廃棄物処理技術に関する研究等に顕著な功績があった個人、企業、団体又は地区を表彰し、その功績をたたえ、もって循環型社会の形成、廃棄物の減量その他その適正な処理の確保、浄化槽によるし尿及び雑排水の適正な処理の推進その他生活環境の保全に資することを目的とする。

II 表彰の対象

次の1から6までのいずれかに該当する個人、企業、団体又は地区を表彰の対象とする。

ただし、春秋叙勲による勲章受章者、環境衛生事業功労者厚生労働大臣表彰、生活環境改善事業功労者等環境大臣表彰を受けた者(地区)を除く。

1 循環型社会形成推進功労者

先駆的又は独創的な取組により、循環型社会の形成について顕著な成果を上げている個人、企業又は団体であって、次のいずれかに該当するもの。

(1) 3R活動推進功労（個人）

廃棄物等の発生抑制及び循環的な利用に関する具体的活動又は普及啓発活動を展開し、これらの活動の推進に熱意と識見を有する者。

ただし、これらの活動を廃棄物の収集運搬・処分事業として行う者を除く。

(2) 3R活動推進功労（団体）

廃棄物等の発生抑制及び循環的な利用に関する具体的活動又は普及啓発活動を目的とする団体であって、これらの活動を継続的かつ着実に推進してきたもの。

ただし、公益法人（社団法人、財団法人）、営利を目的とする団体及び宗教上の教義を広める活動を行う団体を除く。

(3) 3R活動優良企業（企業）

廃棄物等の発生抑制、循環的な利用及び適正処分を実現した企業であって、次のいずれかに該当するもの。

イ その工場又は事業所等の事業に係る拠点において、当該事業活動に伴う廃棄物等の大幅な発生抑制又は循環的な利用の大幅な拡大を実現した企業であって、その取組が将来的にも持続し得るもの。

ロ その製品等について、廃棄物等としての相当程度の発生抑制、循環的な利用の相当程度の拡大又は適正処分の飛躍的な向上を実現した企業であって、その取組が将来的にも持続し得るもの。

ハ 廃棄物等の大幅な発生抑制、循環的な利用の大幅な拡大又は適正処分の飛躍的な向上のための技術、製品又はシステムを実用化し、かつその普及を図る企業。

（略）

III 被表彰者の決定

1 被表彰者決定の手続

被表彰者（又は団体）は、都道府県又は3R活動推進フォーラムが推薦する者（又は団体）について、別途定める表彰選考会の審査を経て環境大臣が決定する。

被表彰者の推薦については、IIに定める被表彰者の功績の区分ごとに別紙様式1から8により、別途定める推薦者数の範囲内で毎年7月1日まで（平成18年度に限り8月1日まで）に大臣あて行うものとする。

2 表彰の方法

表彰の方法は、被表彰者の功績の区分別に表彰状を授与して行うものとし、その時期及び場所は、別途、被表彰者に通知するものとする。

別紙様式 1

平成 年循環型社会形成推進功労者推薦調書（個人用）

都道府県等名

推薦順位		(ふりがな) 氏 名		性別		生年月日 及び年齢	4月1日現在 (満 歳)
現住所							
所属及び 役職名							
推薦事項							
賞 罰 歴					功 績 内 容		
年 月 日	主 体		賞罰の内容及び事由				
略 歴（功績に係のあるもの）							
期 間		事 項					
事業又は勤務年数					年 月		
所管課及び担当者		(電話 — —) 部 (局) 課担当者					

注 1 「推薦事項」欄には、功績の概要を50字以内にまとめて記入すること。

(資料発表の原稿とする。)

2 「賞罰歴」欄には道路交通法又は公職選挙法違反についても必ず記載すること。

また、都道府県等におけるこの種の表彰制度の無い場合は「備考」として「表彰制度無し」と記載すること。

履 歴 書

	ふりがな 氏 名 印 生年月日 年 月 日生（満 歳）
本籍	
現住所	

年月日	事 項

※別紙様式 1、3～6、8 に添付すること。

別紙様式 2

平成 年循環型社会形成推進功労者推薦調書（団体・企業用）

都道府県等名

推薦順位		(ふりがな) 団体・ 企業名	
所在地			
設立年月	年 月		
推薦事項			
功 績 内 容			
活動の状況（功績に関係のあるもの）			
期 間		事 項	
活動年数（通算） 年 月			
所管課及び担当者	(電話 — —) 部（局） 課担当者		

注 1 「推薦事項」欄には、功績の概要を50字以内にまとめて記入すること。

(資料発表の原稿とする。)

- 2 特定非営利活動法人（NPO）、企業においては定款を、その他の団体においては、団体規約等を添付すること。
- 3 団体・企業の概要がわかるもの（パンフレット等）を添付すること。

資料2 平成19～23 年度循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰者功績一覧

平成 19 年度

部門	都道府県	氏名等	功績内容
企業	福岡県	西日本ペットボトルリサイクル株式会社	ペットボトル再商品化において、国内リサイクルシステムの一翼を担い廃棄物の循環利用の向上に貢献。
企業	長野県	花村産業株式会社	地球環境保全への取組を最重要課題と捉え、リサイクルの重要性を高く認識し、県内のアルミリサイクルを牽引するなど 3 R 推進に貢献。
企業	北海道	株式会社木の城たいせつ	事業活動に伴う産業廃棄物(木くず)を独創的な取組により循環的に利用するほか、発生抑制に貢献。
企業	東京都	野村興産株式会社	廃棄物の発生抑制、循環的な利用及び特に、水銀含有廃棄物等についての適正処分を実現し、先駆的、独創的な技術開発により循環型社会の形成に貢献。
企業	大阪府	大栄環境株式会社	廃容器包装プラスチックをテーブルやベンチに再生する事業、産廃プラの固形燃料化、木くずのバイオマスガス化発電事業など、リサイクル活動に貢献。
企業	大阪府	近畿環境興産株式会社	廃油、油泥、汚泥廃塗料などの廃棄物処理を独創的な技術開発により補助燃料化するなど、海外への移転等も活発に行い、3 R 推進に貢献。
企業	東京都	日栄産業株式会社	建設廃材(コンクリートガラ)の再生資源化事業で高いリサイクル率を誇り、海上輸送によりCO2及び粒子状物質の削減に取組み 3 R 推進に貢献。
企業	神奈川県	株式会社タケエイ	連結子会社 3 社によるグループ構成により、建設廃棄物を主とした適正処理を行い、廃棄物の新エネルギー資源化及び再生素材化を推進し、資源循環型社会構築に貢献。
企業	岩手県	北上製紙株式会社	古紙リサイクルを推進するなど地域の環境保全型社会形成の推進役であり、行政との協働により資源循環を行い 3 R 推進に貢献。
企業	東京都	東亜建設工業株式会社	建設発生土のリサイクル技術や溝や河川に堆積している汚染土の除去技術の活用により、環境保全・環境創造に貢献。
企業	岐阜県	上田石灰製造株式会社	リサイクル製品製造、リサイクル技術開発への積極的取組とフロン類破壊業者として地球環境保全への貢献。
企業	北海道	株式会社アレフ	事業活動に伴い発生する生ごみ等の減量・リサイクルに取組み、行政や地域等と連携して家庭の廃食用油のBDFの実用化を推進し、循環型社会の形成の実践と普及に貢献。
企業	大阪府	株式会社テクマ	広域認定制度を活用し、ペットボトル再生繊維の利用及び使用済みユニフォームの再生利用を全国展開し、3 R 推進に貢献。
企業	東京都	高俊興業株式会社	排出事業者が発生抑制の企画提案を計画段階から行い、発生した建設廃棄物等は自社中間処理施設で無害化、減量化し、再資源化率の向上を図り、循環的社会づくりに貢献。
企業	東京都	株式会社伊藤園	大量に発生する茶殻を余分なエネルギーをかけずに量、ボールペン等の身近な製品にお茶を配合する新たな技術確立するなど、3 R 推進に貢献。
企業	秋田県	株式会社エコリサイクル	使用済み家電、PC、OA機器のリサイクル、冷媒フロン、断熱材フロン適正処理及び断熱材を熱源利用、小型電子電気機器の希少金属再利用等、循環型社会の形成に貢献。
企業	熊本県	株式会社田中商店	ガラスびんの統一リユースシステムの構築という先駆的・独創的な取組の中心事業者として同システムの定着・拡大に尽力するなど、持続可能な循環型社会の構築に貢献。
企業	鳥取県	株式会社細田企画	石膏ボード分別等の技術開発、製品の全国的な販売普及を通じ、廃棄物の発生抑制・リサイクルの推進に貢献。

部門	都道府県	氏名等	功績内容
団体	京都府	ふろしき研究会	日本の伝統文化である「ふろしき」の普及を全国的に促進し、過剰包装やレジ袋削減の推進に大きく寄与し、3 R活動の推進に貢献。
団体	静岡県	磐田市豊田ごみを考える会	ごみの減量と循環型社会を目指し、永年地域でごみの分別指導や再資源化への研究、啓発活動を実施し、3 R活動の推進に貢献。
団体	神奈川県	ファイバーリサイクルネットワーク	古繊維リサイクルの実践活動、普及啓発活動を通じ、循環型社会の形成に貢献。
団体	愛知県	特定非営利活動法人稲沢ゴミO協議会	企業・行政に働きかけ廃棄物の3 Rの総合的な取組を実施し、循環型社会形成に向けた種々の活動を展開し、3 R活動の推進に貢献。
団体	北海道	循環ネットワーク北海道	循環型社会の構築に向けて、廃棄物の減量化・資源の有効利用の観点から幅広く活動し、北海道内の環境啓発に貢献。
団体	山形県	学校法人金山学園めばえ幼稚園	自ら廃食用油をBDFに再生し2台の送迎バスに利用する等、持続可能な循環型まちづくりに貢献。
団体	神奈川県	厚木なかちょう大通り商店街振興組合	消費者、生産者、大学などが一体となった生ごみ回収、堆肥化、これを利用した野菜生産、販売までを行う地域内循環システムを構築し、3 R活動推進に貢献。
団体	京都府	綾部市環境市民会議	ごみ問題をはじめ、地球温暖化等地球規模の環境問題に対し、自主的な各種の取組を実施する中、広く市民に環境保全意識を高め、循環型社会の構築に向けた3 R活動の推進に貢献。
団体	千葉県	G O N E T (ごみゼロネットちば21)	千葉県内各地で地域に根ざした3 R活動や、毎年、交流会や講演会、イベントの企画、行政や廃棄物処理事業者と市民との交流など3 R活動の普及啓発に貢献。
団体	青森県	特定非営利活動法人循環型資源社会発信地域創造グループ	むつ湾美化の諸活動、世界へ向けて情報発信等、不法投棄・有害物質監視の具体的活動を通じ、3 R活動の推進に貢献。
団体	香川県	N P O グリーンコンシューマー高松	自治体、市民、NP0、企業等との協働による使用済み割りばしのリサイクル活動やイベント「こども割りばしサミット等」の活動を行い、3 R活動の推進に貢献。
団体	埼玉県	朝霞市リサイクルプラザ企画運営協議会	リサイクルプラザ開設当初から、3 R推進事業の企画・運営等を行っている市民ボランティア団体であり、積極的な3 R活動の推進に貢献。
団体	青森県	特定非営利活動法人循環型社会創造ネットワークNP0法人エッグ	事業系食品廃棄物の減量・堆肥化事業や、学校、地域コミュニティと連携した3 R活動推進に貢献。
個人	愛媛県	戒田 節子	環境ミュージカルの制作・上演等を通じて、ごみの減量化やリサイクルの必要性などの普及活動を永年にわたり継続的に実施する等
個人	広島県	源川 弘毅	R P F事業、容リプラ再商品化事業展開、循環型社会づくりに向けた若手経営者の育成等、3 R活動の推進に貢献。
個人	茨城県	宮本 清治	製鉄所内で発生する集塵ダストから、鉄と亜鉛を分離回収する技術開発による、資源の有効利用に貢献。
個人	宮城県	今野 利夫	永年にわたり、廃棄物の発生抑制、減量・リサイクルの普及啓発活動を通じて、循環型社会の構築に貢献。
個人	徳島県	岸 小三郎	廃食用油等の再生利用に取組み、業界団体役員として廃棄物の発生抑制と循環的利用促進に貢献。
個人	北海道	服部 隆志	道内の廃自動車撤去事業において中心的役割を果たした。廃棄物の処理に関し高い見識を有し、循環型社会形成の推進に貢献。
個人	福岡県	藤 浩志	いらなくなったおもちゃを交換する「Kaekkoシステム」の開発・普及や、廃棄物等を利用した創作活動を通じ日常生活に根ざした3 Rの啓発活動に貢献。
個人	福岡県	岡崎 尚文	永年にわたり、協会役員として排出事業者や処理業者等に対する行政協力や地域における積極的な啓発普及活動の推進に貢献。
個人	福岡県	西山 末生	全国清掃事業連合会の3 R推進担当・副会長として、員企業に対する3 R推進活動のリーダーシップを発揮、加盟事業者に対する指導等を行い、3 R活動の推進に貢献。
個人	福岡県	奥野 照章	北九州市環境局長として全国に先がけ数々の環境施策を実施し、循環型社会の構築に先導的な役割を果たし3 Rの啓発活動に貢献。

平成 20 年度

部門	都道府県	氏名等	功績内容
企業	北海道	パナソニック電工帯広株式会社	成形工程で発生する廃プラスチックを削減し、廃棄物の発生を最小限に抑える取り組みを実施するなど、3 R 推進に貢献。
企業	北海道	株式会社町村農場	家畜排せつ物を処理して有機肥料として農地に還元、処理の際に発生するバイオガスを燃料に発電するなど、3 R 推進に貢献。
企業	岩手県	太平洋セメント株式会社大船渡工場	廃棄物のセメント資源化による適正処理の実現などにより、循環型社会の形成推進に貢献。
企業	岩手県	東北日本電気株式会社	地域におけるゼロエミッション推進活動に先導的な役割を担い、循環型社会の形成推進に貢献。
企業	秋田県	横手運送株式会社	生ごみのリサイクルによるコンポストを使用した環境に配慮したエコフードの栽培・販売で、循環型システムの普及・促進に貢献。
企業	山形県	東北エプソン株式会社	事業活動で発生する廃棄物の再資源化率100%の達成、半導体業界初のフッ酸の再資源化など、循環型社会形成推進に貢献。
企業	栃木県	花王株式会社 栃木工場	産業廃棄物のゼロエミッションの継続、そのリデュース、リユース、リサイクルにより3 R 活動の推進に貢献。
企業	栃木県	有限会社 ドンカメ	生ごみの堆肥化や農家と連携した学校給食への農作物の供給等、町独自の食の循環システムの確立に貢献。
企業	千葉県	株式会社 東亜オイル興業所	廃油から再生重油及びコンクリート剥離剤を製造することによりリサイクル事業を実施し、循環型社会の推進に貢献。
企業	東京都	五洋建設株式会社	職員・協力会社・処理会社等現場の3 R 活動に積極的に取り組むなど、3 R 推進に貢献。
企業	東京都	株式会社 リーテム	長く資源循環の規範的な取り組みを行い、3 R 推進・普及活動を展開、業界のリーダー的存在として循環型社会形成に貢献。
企業	石川県	株式会社 北陸リサイクルセンター	飲料容器の再商品化について事業系または行政分を加え活動、リサイクル園内循環の一翼を担い、再生利用の向上に貢献。
企業	福井県	福井環境事業株式会社	最新の選別システムの導入によるプラスチックの資源化に取り組むなど、多年にわたり3 R 推進に貢献。
企業	長野県	小柳産業株式会社	永年にわたりリサイクルを主体に地域社会とともに環境保全に取り組むなど、循環型社会形成推進に貢献。
企業	岐阜県	西濃建設株式会社	建設廃棄物リサイクル事業、下水汚泥リサイクル技術開発の積極的取組と使用を通して循環型社会形成に貢献。
企業	三重県	岩谷興産株式会社	エココンテナの開発・販売により、保管物の劣化防止によるリサイクル効果の向上に寄与するなど、3 R 推進に貢献。
企業	三重県	エス・エヌ・ケー・テクノ株式会社	産業廃棄物(廃油、廃液等)を燃料化、セメント焼成用補助燃料として安定・継続的に供給し、循環型社会形成推進に貢献。
企業	京都府	株式会社 京都環境保全公社	廃プラスチック、紙くず及び下水汚泥のリサイクル推進に努め、その普及啓発に尽力するなど、3 R 活動推進に貢献。
企業	京都府	宝酒造株式会社伏見工場	廃棄物の分別回収の徹底、排水余剰汚泥減容化等に取り組み、経年的に再資源化率99%以上を達成し、3 R 推進に貢献。
企業	京都府	日立マクセル株式会社京都事業所	磁気テープ屑の建材材料化や廃プラスチックの固形燃料化により経年的に再資源化率99%以上を達成し、3 R 推進に貢献。
企業	兵庫県	新日本開発株式会社	燃え殻の全量セメント原材料化、成分調整した混合廃棄物のセメント燃原料化など、循環型社会形成推進に貢献。
企業	鳥取県	有限会社 山陰クリエート	発泡スチロールの油化還元、廃プラスチックの固形燃料化など、3 R 推進に貢献。
企業	岡山県	鈴木工業株式会社	食品工場等から発生する無機汚泥に生石灰等を加え、消石灰製品等を製造する技術を確認、3 R 推進に貢献。
企業	福岡県	田川産業株式会社	「漆喰」をベースにした独創的な手法により、石炭灰等を内装用建材にリサイクルする技術を開発、実用化、3 R 推進に貢献。
企業	福岡県	株式会社 フコク	ポリエステル不織布端材を自動車床下吸音材等とする技術及び製造工程を確立し、廃棄物発生抑制に貢献。
企業	熊本県	株式会社 環境総合技術センター	生ごみを発酵・乾燥、肥料にして野菜づくりを行う完全循環型食品リサイクルシステムを実現し、循環型社会形成推進に貢献。
企業	大分県	日本フィルム株式会社	「ごみ袋は資源バッグ」という理念のもと、環境と人に配慮した製品開発を推進し、ごみ減量化等に貢献。
企業	鹿児島県	大口酒造株式会社	酒造(焼酎)メーカーとして900ml茶びんのリユースシステムの構築、ガラスびんリユースの普及に尽力、3 R 活動推進に貢献。

部門	都道府県	氏名等	功績内容
団体	秋田県	協業組合 タイセイ	建造物解体に伴う廃木材をチップ化、バイオマスボイラーの燃料に利用する等、廃木材の再生利用(リサイクル)に貢献。
団体	山形県	長井市ノレインボープラン推進協議会	生ごみを分別・堆肥化、その堆肥で生産した農産物を消費するリサイクルシステムを推進、循環型社会形成に貢献。
団体	山形県	P & P トレーリサイクル研究会	ヨコタ東北を中心に地元スーパー及び福祉施設等が連携し、食品トレーの再生再利用を行うなど、3 R 推進に貢献。
団体	富山県	富山県レジ袋削減推進協議会	全国で初めて県内全域のスーパーマーケットなどにおいてレジ袋の無料配布取止めに踏み切るなど、3 R 推進に貢献。
団体	福井県	敦賀市消費者連絡協議会	永年にわたりごみ減量化等の普及啓発を行い、レジ袋削減の取組にも主導的な役割を果たすなど、3 R 活動推進に貢献。
団体	静岡県	菅山区	紙類ごみのリサイクル活動を行う雑誌減量大作戦を展開し、地域住民に廃棄物削減の意識を広めるなど、3 R 活動推進に貢献。
団体	愛知県	小牧市女性の会	3 R 運動が注目される以前からリサイクル問題に着目し、さまざまな活動を展開、循環型社会の形成推進に貢献。
団体	愛知県	特定非営利活動法人中部リサイクル運動市民の会	永年にわたり、リサイクル運動の推進、環境商品の開発普及等に主導的な役割を果たすなど、循環型社会形成推進に貢献。
団体	三重県	NPO とばりサイクルネットワーク	「鳥羽市リサイクルパーク」を設立時から主体となって管理・運営を行い、家庭ごみのリサイクルなど、3 R 推進に貢献。
団体	兵庫県	相生市消費生活研究会	兵庫県の5 R の取り組みに先駆け、先進的にマイバッグ持参運動に取り組み、レジ袋無料配布中止によるレジ袋の削減に貢献。
団体	岡山県	倉敷市環境衛生協議会水島地区協議会	ごみ減量化などの3 R 推進をスローガンに、ごみゼロキャンペーンなどの運動を永年にわたり行うなど、3 R 活動の推進に貢献。
団体	岡山県	特定非営利活動法人津山市消費生活モニター連絡会	“環境を守ることは生命(いのち)を守る”を基本理念にリサイクルなどの活動を展開、循環型社会形成推進に貢献。
団体	福岡県	特定非営利活動法人21世紀の森林づくり	スギの間伐材等の低位利用材を活用した「オール木質材パレット」を開発し、3 R 推進に貢献。
団体	佐賀県	特定非営利法人 伊万里はちがめプラン	生ごみや廃食油を捨てる側の料飲店組合・旅館組合が主体となり、資源として活用する取り組みを行い、3 R 活動推進に貢献。
団体	長崎県	させぼエコプラザ	廃校となった小学校校舎を再利用し、粗大ごみ補修譲渡等機能を兼備した市民協働型運営を行い、循環型社会形成推進に貢献。
個人	北海道	矢羽羽 京子	古紙、ダンボール、空き缶等回収運搬の実践、普及啓発活動を通じ、循環型社会の形成と障害者の自立支援社会参加に貢献。
個人	東京都	戸部 昇	東京包装容器リサイクル協同組合の副理事長としてPETボトル等の回収システムを構築し、東京都内の自治体分別回収に貢献。
個人	神奈川県	彦坂 武功	永年にわたり、業界団体のトップリーダーとして、廃木材のリサイクル推進に取り組み、循環型社会の形成に貢献。
個人	岡山県	小六 信和	古紙のリサイクル教室を開催し、自ら講師として学校等を訪問してリサイクル思想の普及啓発に取り組むなど、3 R 活動推進に貢献。
個人	徳島県	板東 昭	建設系産業廃棄物(木くず、がれき類)の再生利用を推進、業界団体役員として廃棄物の発生抑制と循環的利用促進に貢献。
個人	長崎県	立山 貢	全清連加盟400余会員企業に対する循環型社会づくり・3 R 推進に関する普及啓発活動を展開するなど、3 R 活動推進に貢献。

平成 21 年度

部門	都道府県	氏名等	功績内容
企業	北海道	環境開発工業株式会社	エレメントカッター機の開発により、自動車の廃オイルフィルターを約 80%再資源化し廃棄物の排出量を抑制。
企業	岩手県	岩手東芝エレクトロニクス株式会社	産業廃棄物のリサイクル並びに最終処分量の抑制に注力し、循環型社会形成に貢献。
企業	千葉県	シャープ株式会社 幕張事業所	紙の使用量把握とリサイクルの徹底、厨芥の減容化、OA機器等産業廃棄物のリサイクルの徹底等により貢献。
企業	東京都	東京たまエコセメント株式会社	ごみ焼却灰の全量をエコセメント原料として再生利用し、埋立地の延命化等に寄与。
企業	東京都	森永乳業株式会社 東京多摩工場	廃棄物の外部排出量削減及びゼロエミッションの推進並びに容器の再使用、軽量化等、3 R の推進。
企業	東京都	東レ株式会社 機能製品・罐製品事業部門 機能製品事業部	ユニフォームのリサイクルシステムを推進し、普及に貢献。
企業	東京都	日新工業株式会社	ユニフォームのリサイクルシステムを推進し、普及に貢献。
企業	東京都	株式会社 長谷工コーポレーション	循環型社会形成に対して、廃棄物の減量化とリサイクルの推進への取り組みとして、全事業所で混合廃棄物量の削減を図っている。
企業	東京都	株式会社 大林組	建設業界に先駆けて、ゼロエミッション活動を開始し、全現場に展開。廃棄物の排出抑制を大幅に向上させた。
企業	長野県	株式会社 信州ウェスト	適正処理の在り方について常に創意工夫を凝らし、資源有効活用の追求と資源循環構築に積極的に取り組んでいる。
企業	岐阜県	丸硝株式会社	廃ガラスリサイクル事業を通じた循環型社会への貢献。
企業	静岡県	静岡油化工業株式会社	食品廃棄物の資源循環型ビジネス、バイオ燃料導入の分野で社会的な貢献が大きく、3 R 活動の模範となっている。
企業	京都府	光アスコン株式会社	産業廃棄物の適正処理並びに省資源を推進し、環境破壊を減らすべく建設廃材アスファルトガラの再生及び廃プラスチック・紙くずのリサイクルに努め、その普及啓発に尽力。
企業	兵庫県	キンキサイン株式会社	製造工程より排出された茶殻を堆肥化。
企業	兵庫県	泉興業株式会社	有機性汚泥・樹木の肥料化、金属・プラスチックの原料化など、多種廃棄物の再生利用に取り組み、循環型社会の形成に寄与。
企業	鳥取県	倉吉環境事業有限公司	使用済み天ぷら油を無償回収し、BOP燃料にリサイクル化し、循環型社会に貢献。
企業	徳島県	大塚製薬株式会社 徳島ワジキ工場	廃棄物の再資源化を推進し、ゼロエミッションを達成。徳島県 3 R モデル事業所として循環型社会形成に貢献。
企業	香川県	リコー関西株式会社 四国支社	ペーパーレスオフィスや廃棄物の 100%再資源化を達成し、そのノウハウを公開し 3 R に貢献。
企業	福岡県	株式会社 ビッグベアーズフーズサービス	ビザ等の容器・箱をリユース・リサイクルし、容器代も返還するデポジット制に取り組んでいる。
企業	福岡県	シタマ石灰有限公司	廃棄される乾燥剤を有効活用した乾燥剤リサイクル肥料の開発。
企業	佐賀県	有限会社 鳥栖環境開発総合センター	永年にわたり 3 R 活動や資源物循環への取組を実施。さらにメタン発酵発電施設、木質バイオマス燃料化施設、廃食用油燃料化などバイオマスエネルギーの推進に寄与。

部門	都道府県	氏名等	功績内容
団体	北海道	下川町森林組合	間伐や木材加工工程で発生する森林バイオマスの有効利用により、ゼロエミッションシステムを確立。
団体	秋田県	NPO法人 秋田菜の花ネットワーク	菜の花の利活用に関連する全県的な活動を展開し、BDF燃料の製造・利用などの循環型社会形成の推進に貢献。
団体	富山県	南砺市連合婦人会	県内トップクラスの資源集団回収の実施やマイバッグ運動の推進など、ごみの減量化・リサイクル活動を積極的に取り組んでいる。
団体	富山県	滑川市立早月中学校PTA	長年にわたり資源集団回収を実施するなど、地域ぐるみでごみの減量化・リサイクル活動に積極的に取り組んでいる。
団体	石川県	かほく市子ども会連絡協議会	30有余年の資源ごみ集団回収を通じ、廃棄物の排出抑制等に大きく寄与。
団体	岐阜県	美濃加茂市生活学校	長年に渡って定期的な資源回収を実施し、リサイクル活動に貢献。
団体	静岡県	静岡県牛乳協会	学校給食用牛乳の紙パックのリサイクル推進に向けたシステムづくり及び資源再利用の推進。
団体	大阪府	柏原エイフボランティアクラブ	環境美化運動、3Rの推進運動や各種キャンペーンを展開し、ごみ減量と環境美化、環境保全に大きく貢献。
団体	兵庫県	エコフィード循環事業協同組合	食品バイオマスから、エコフィード製造と高付加価値食品の生産流通システムを構築。
団体	愛媛県	愛媛県立新居浜工業高等学校	使用済の車椅子を修理・再生し、アジア諸国に届ける「空飛ぶ車椅子」活動に積極的に取り組んでいる。
団体	福岡県	三潁郡大木町婦人会	廃傘布を利用したマイバッグ作りや生ごみを堆肥化するなどリサイクルの普及啓発活動を実施。
団体	福岡県	中島校区まちづくり協議会	古紙・空き缶・食用廃油の回収に取組、町づくりを推進。
個人	福島県	占部 敏治	全国清掃事業連合会における3R推進担当理事として、全国445会員企業に対する循環型社会づくり・3R推進の啓発活動の先頭に立つとともに、全国清掃事業連合会東北地区会員に対する3R推進の指導を行っている。
個人	神奈川県	玉川 榮	大和市リサイクル事業協同組合の設立当初より、代表理事に就任し、多年にわたり、資源回収事業を受託し行政による循環型社会に貢献。
個人	岡山県	岡本 靖磨呂	親子環境学習エコツアーの実施等の環境教育に率先して取り組むなど、循環型社会に多大の貢献。
個人	広島県	三上 秀行	アスファルト廃材、コンクリート廃材の再利用促進に関わる啓蒙活動。
個人	長崎県	旭 芳郎	ごみ減量化や温暖化防止などの循環型社会の重要性について啓発活動を展開。

平成 22 年度

部門	都道府県	氏名等	功績内容
企業	北海道	道栄紙業株式会社	製紙メーカーから排出される残渣物の再資源化により多目的環境資材を製品化。
企業	北海道	サッポロビール株式会社北海道工場	工場敷地内から排出される副産物・廃棄物の再資源化に取り組み、再資源化 100%を達成・継続している。
企業	北海道	丸利伊丹車輛株式会社	自動車解体作業において独自の前処理工程を構築し、作業時に排出される廃棄物のリサイクル率の向上に取り組んでいる。
企業	岩手県	富士通セミコンダクター株式会社岩手工場	事業場から排出する廃棄物量の削減を中長期的目標を立て計画的に進め、大幅な削減を実現。
企業	宮城県	東日本リサイクルシステムズ株式会社	廃棄物の循環利用や適正処分の向上のための技術やシステムを実用化して 3 R の推進に貢献。
企業	埼玉県	株式会社ガイアート T・K 白岡合材工場	埼玉県内で最も歴史のある建設廃棄物再生工場として 3 R を推進するとともに、再生重油を使用しサーマルリサイクルにも寄与。
企業	東京都	株式会社間組（ハザマ）	解体コンクリートを現場内再利用して構造物の支持地盤を造成したり、空洞を埋めもどす技術を確立・展開。
企業	東京都	日本国土開発株式会社	ホタテ貝殻のコンクリート用細骨材への活用（シェルコンクリートの実用化）。
企業	東京都	泰和株式会社	（社）環境生活文化機構運営のユニフォームリサイクルシステムにおいて、製造・販売・保守管理・回収・再生品原料提供などに取り組んでいる。
企業	東京都	日本コカ・コーラ株式会社	「い・ろ・は・す」天然水 520ml に国内最軽量で植物由来素材を一部使用した PET ボトルを導入、消費者のエコ活動への参加を啓発。
企業	長野県	株式会社キタニ	あらゆる産業廃棄物のリサイクル化のため施設設備の充実と廃棄物の適正分別による高品質の原材料化に積極的に取り組んでいる。
企業	長野県	株式会社竹原重建	県が推進する「産業廃棄物減量化・適正処理実践協定」、「信州リサイクル製品認定制度」に率先して取り組み廃棄物の再資源化に尽力。
企業	岐阜県	揖斐川工業株式会社	廃ガラス・溶融スラグ・フライアッシュ・鉄鋼スラグのリサイクル事業を通し循環型社会形成に貢献。
企業	静岡県	丸富製紙株式会社	家庭紙製造を通じた紙パックの再利用及びゼロエミッション技術の確立により循環的利用、廃棄物削減に寄与。
企業	京都府	ローム株式会社	廃液の分別回収による有価物化や、薬品容器のリターナブル化等に努め、再資源化率 99%以上を 6 年間達成している。
企業	鳥取県	有限会社赤碕清掃	バイオマス燃料の利用推進や間伐材等を活用した木質ペレットの製造販売を行い、3 R を推進するとともに地球温暖化防止活動に寄与。
企業	徳島県	株式会社大塚製薬工場鳴門工場	廃棄物の再資源化を推進し、ゼロエミッションを達成。徳島県認定 3 R モデル事業所として循環型社会形成推進に貢献。
企業	福岡県	大石産業株式会社	古紙を原料とした「パルプモールド」製品により、化成製品による廃棄物の発生を抑制に貢献。
企業	佐賀県	株式会社島田商会	使用済自動車リサイクル工場において部品のリユースに努め、処理施設から発生する金属くずやプラスチックくずも素材別に分別するなど資源の有効利用に先進的に取り組んでいる。
企業	熊本県	前田建設工業株式会社九州支店熊本合同庁舎作業所	ＪＲ熊本駅周辺整備事業において、工事計画段階より環境に配慮した工事を進め、94.1%の再資源化率を達成するなど、建設工事現場における環境負荷低減活動に取り組んでいる。

部門	都道府県	氏名等	功績内容
団体	神奈川県	茅ヶ崎市商店会連合会	リターナルびん、生ごみの堆肥化、マイバックづくりを進め、商店街を中心とした循環型社会の形成を推進。
団体	富山県	立山中央生活学校	ボランティアによるリサイクル活動をはじめ、その他の３Ｒ活動や美化活動に取り組んでいる。
団体	石川県	七尾市緑ヶ丘町内会みどり会	長年に亘り、廃棄物の細分別・リサイクル運動を推進、また、リサイクルに関する研鑽を積むなど循環型社会形成への模範的な地域づくりに貢献。
団体	岐阜県	特定非営利活動法人環境浄化を進める会岐阜	長年に亘り、家庭から出る「生ごみ」の減量・資源化の市民啓発を行い循環型社会の形成に寄与。
団体	愛知県	東海市リサイクル運動市民の会	30 年間に亘り、家庭における不用品の活用を図る市民バザーや資源回収に先進的・継続的に取り組んでいる。
団体	滋賀県	滋賀グリーン購入ネットワーク	企業、行政、消費者団体等による「グリーン購入」の実践活動、普及啓発活動などに取り組み、「循環型社会」の構築に貢献。
団体	滋賀県	ごみを減らそうプロジェクト	家庭ごみの減量を進めるため、市民対象の出前講座の実施、また行政と連携したレジ袋削減に向けた仕組みづくりに取り組んでいる。
団体	徳島県	海部郡レジ袋有料化推進実行委員会	2007 年 10 月に「地域主導型」により郡内 154 店舗で県内初のレジ袋有料化をスタートさせ、マイバック持参率 90%を維持している。
団体	福岡県	環境学習サポーターの会	リサイクル体験などを通して、地域における環境活動への機運の醸成を図り、３Ｒ活動の普及を推進。
個人	岩手県	三浦 求	行政等関係者と協議し、廃棄物のセメント原料としての受入処理体制の整備や地域の再利用ごみの収集を指導・実行してきた。
個人	栃木県	吉成 一	廃棄物の発生抑制・減量・リサイクルなど循環型社会構築に向けた啓発活動に貢献。
個人	埼玉県	根岸 文夫	多年に亘り、環境衛生推進委員として活躍。特に資源ごみ分別収集を地域に根付かせ、本庄市における３Ｒ推進に貢献。
個人	岐阜県	松田 良明	建設廃棄物の３Ｒ 推進並びに循環型社会形成に向けた啓発活動及び組合員指導に尽力。
個人	愛知県	藤野 賢吉	名古屋市のレジ袋有料化の推進を提案し、２年度で全 16 区に広げる等、ごみの発生抑制に貢献。
個人	鳥取県	衣川 益弘	鳥取県版環境管理システムに貢献及びグリーン購入とっとりネットを設立し、グリーン購入の推進に貢献するなど循環型社会形成の推進に貢献。
個人	福岡県	大坪 隆治	(社)福岡県産業廃棄物協会役員として排出事業者や産業廃棄物処理業者等に対し、３Ｒの啓発普及活動を永きにわたり推進。

平成 23 年度

部門	都道府県	氏名等	功績内容
企業	北海道	北清企業株式会社	処理が難しいとされる新築系の廃石膏ボードを独自の技術によりグラウンド用ライン引き粉として再利用。
企業	東京都	サントリービジネスエキスパート株式会社	PETボトルの水平循環の確立に向けて、使用済みPET ボトルの物理的循環利用に関する技術の飛躍的向上と、その利用拡大普及に貢献すると共に、併せて石油資源や電力消費量削減、CO2排出量削減にも大いに貢献が期待されるものである。
企業	神奈川県	株式会社横須賀軽金	生ゴミを肥料にし、その肥料を使用し農家が農作物を作り、その農作物を再び購入するという循環システムを運営することにより、ゴミの減量及び資源循環に寄与。
企業	神奈川県	日本電気株式会社 玉川事業場	自社製品のリユース・リサイクルと社員食堂生ゴミリサイクルによる廃棄物削減。
企業	長野県	株式会社恵那興業	平成11年に飯田市が環境都市宣言として計画した飯田市エコタウンの設立に協力するとともに自らの廃棄物の再資源化工場を設置し、循環型社会形成の模範的な事業の展開を図っている。
企業	長野県	株式会社イナック	長年にわたり多品目による廃棄物の分別・リサイクル化を推進しているほか、構内緑化植樹をはじめ地域清掃活動を通じて積極的に地域住民と交流し、廃棄物の減量化、再資源化、有効利用等に対する啓蒙を図っている。
企業	京都府	株式会社山本清掃	昭和24年の創業以来、60年余にわたって事業系一般廃棄物並びに産業廃棄物、資源物の分野全般において、収集・運搬事業、リサイクル等の中間処理事業を展開し、持って循環型社会の形成、廃棄物の減量その他、その適正な処理の確保に取り組んでいる。
企業	奈良県	株式会社積水化成品天理	場内発生廃棄物のゼロエミッション活動に取り組み、経年的に再資源化率99%以上を達成し、3R推進に貢献。
企業	広島県	広島ガステクノ株式会社	有機系廃棄物を有価物に変える連続乾留炭化処理装置の建設。
企業	徳島県	大塚製薬株式会社 徳島板野工場	廃棄物の再資源化を推進し、ゼロエミッションを達成。県認定3Rモデル事業所として循環型社会形成推進に貢献。
企業	福岡県	株式会社大石物産	浄水汚泥を利用した園芸用培土を開発・販売し、廃棄物の循環利用システムの確立及び普及に貢献している。
企業	福岡県	コカ・コーラウエストロジスティクス株式会社北九州さわかりサイクルセンター	飲料メーカー自身が事業活動で発生させた使用済み空容器及び廃棄自動販売機の再資源化に取り組んでいる。
企業	沖縄県	株式会社トリム	廃ガラスの発泡方式再生技術を確立かつ再資源化システムを構築し、普及を図っている。

部門	都道府県	氏名等	功績内容
団体	北海道	津別単板協同組合	合板を製造する過程で発生する様々な廃棄物を、燃料化や肥料化などによりバイオマス資源として利活用した。
団体	北海道	社会福祉法人清水旭山学園	地域の事業所から食品残さを回収し、養鶏飼料として自家使用することによりリサイクルシステムを形成。
団体	富山県	北加積児童クラブ	長年にわたり資源集団回収を実施するなど、地域ぐるみでごみの減量・リサイクル活動に積極的に取り組んでいる。
団体	石川県	リサイクルネットワーク in 小松	BDF（バイオディーゼル燃料）製造をはじめとする廃棄物の減量化・リサイクル活動の先見性、独自性及び継続性（20年）を評価。
団体	岐阜県	岐阜県医師会協同組合	感染・非感染の医療廃棄物の減量化、3R推進、適正処理確保を通じた循環型社会形成への貢献。
団体	岐阜県	大垣市環境市民会議	大垣市環境基本計画に基づき、市の望ましい環境像の実現を目的に設立され、環境に関する活動を行っている。
団体	京都府	八幡自動車処理事業協同組合	自動車リサイクル法施行以前から、廃自動車の処理に関する「利用券制度」を創設して環境保全に取り組んだ。
団体	鳥取県	鳥取県立米子南高等学校 家庭クラブ	校内のごみの分別回収、小学生への環境教育、オリジナルマイバッグの配布など地域密着型の取り組みを実施。
団体	鳥取県	鳥取県立境港総合技術高等学校	生徒会、福祉科、機械科、食品科、海洋科が特色を生かし、学校全体で地域に密着した循環型社会作りに貢献。
団体	鳥取県	三朝温泉観光協会	町内の旅館、病院等から出る生ごみ及び廃食用油を集めて、堆肥とBDF燃料を製造し循環利用している。
団体	福岡県	グリーンコープ生活協同組合	ふくおかグリーンコープ生協の4R運動の推進は、循環型社会をめざして4R運動の展開を先進的に進めてきた。
個人	岩手県	八重樫 重夫	各家庭を訪問し分別や資源回収の徹底を促し、ごみ減量とリサイクルを定着させ、循環型社会の形成に寄与。
個人	神奈川県	山岡 憲一	リーダーとして技術者として環境マネジメントシステム（EMS）を機能させ、産廃発生量を大幅に削減し、その成果を社外にも普及した。
個人	岡山県	虫明 清一	日本で唯一の公益法人としてユニフォームのリサイクル事業を実施する社団法人環境生活文化機構を設立し、約15年の長きにわたり理事長及び特別会員として、積極的に繊維リサイクルの普及・促進に貢献している。
個人	徳島県	森 光子	長年にわたり地域の環境美化及びゴミの減量化・リサイクル推進等に意欲的に取り組んだ功績が顕著であるため。
個人	大分県	深道 春男	大分県レジ袋削減検討会議会長として平成21年6月にレジ袋無料配布中止の取り組みを県内一斉にスタートさせた。

3R 活動先進事例集 2012

～平成24年度循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰受賞者の取り組み～

平成25年3月

環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部企画課循環型社会推進室

〒100-8975 東京都千代田区霞が関 1-2-2

TEL 03-3581-3351

FAX 03-3591-8262

3R 活動推進フォーラム

〒130-0026 東京都墨田区両国 3-25-5

JEI 両国ビル8F 公益財団法人 廃棄物・3R研究財団内

TEL 03-6908-7311

FAX 03-5638-7164



この製品は、古紙パルプ配合率 100%の再生紙を使用しています。このマークは、3R 活動推進フォーラムが定めた表示方法に則って自主的に表示しています。



この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。

リサイクル適性の表示：印刷用の紙にリサイクルできます

この印刷物は、グリーン購入法に基づく基本方針における「印刷」に係る判断の基準にしたがい、印刷用の紙へのリサイクルに適した材料[A ランク]のみを用いて作製しています。